

- 今日のテーマ・(後半)

「地中海が生んだ天才建築家ガウディ」の作品と生涯に迫る#01

- 簡単にオンライン用のお名前と地域など教えてください。

- ガウディ についての興味・関心などお聞かせください。

アントニオ・ガウディの生涯



1

建築家の夢の実現
0~25歳
1852~1877

- ・1852年肩ルーニア州レウスで生まれる・0歳・誕生
- ・1863年11歳・初等教育を受ける(1868年)
- ・1871年17歳・父親と姪のローサと共にバルセロナに移住
- ・1873年21歳・バルセロナ建築高等技術学校に入学(~1877年)製図工として工房で働く
- ・1876年24歳アメリカ記念博のスペイン館の図面作成
- ・1877年25歳・カタローニア広場の噴水の設計図作成・卒業制作の大学講堂を手掛ける

2

運命を決定づけるパトロン、グエイとの出会い
26~51歳
1878~1902

- ・1878年26歳建築家の資格を取得・ガラスショーケース制作しパリ万博スペイン館出品
- ・1882年30歳・バルセロナ大聖堂ファサード設計競技参加、
- ・1883年31歳・サグラダファミリア贖罪聖堂の主任建築家となる(~1926年)
- ・1886年34歳・グエイ邸(~1889)
- ・1891年39歳・カサ・デ・ロス・ポティネス(~1892)
- ・1900年48歳・グエイ公園(~1914)
- ・1902年50歳マリョルカ大聖堂の修復(~1914)

3

ガウディ集大成の豊穡な建築作品群
52~74歳
1904~1926

- ・1904年52歳・カザ・バッリョ(~1906)
- ・1906年54歳・カザ・ミラ(~1910年)
- ・1908年56歳・テレジア学院のための礼拝堂設計(~1910)
- ・1912年60歳・サンタマリア教区教会の説教壇2基設計
- ・1916年64歳・サグラダファミリア贖罪聖堂受難のファサードの前の記念碑を設計
- ・1926年74歳・バルセロナのサンタ・クルス病院にて死亡(市電にはねられるという不慮の事故)

4

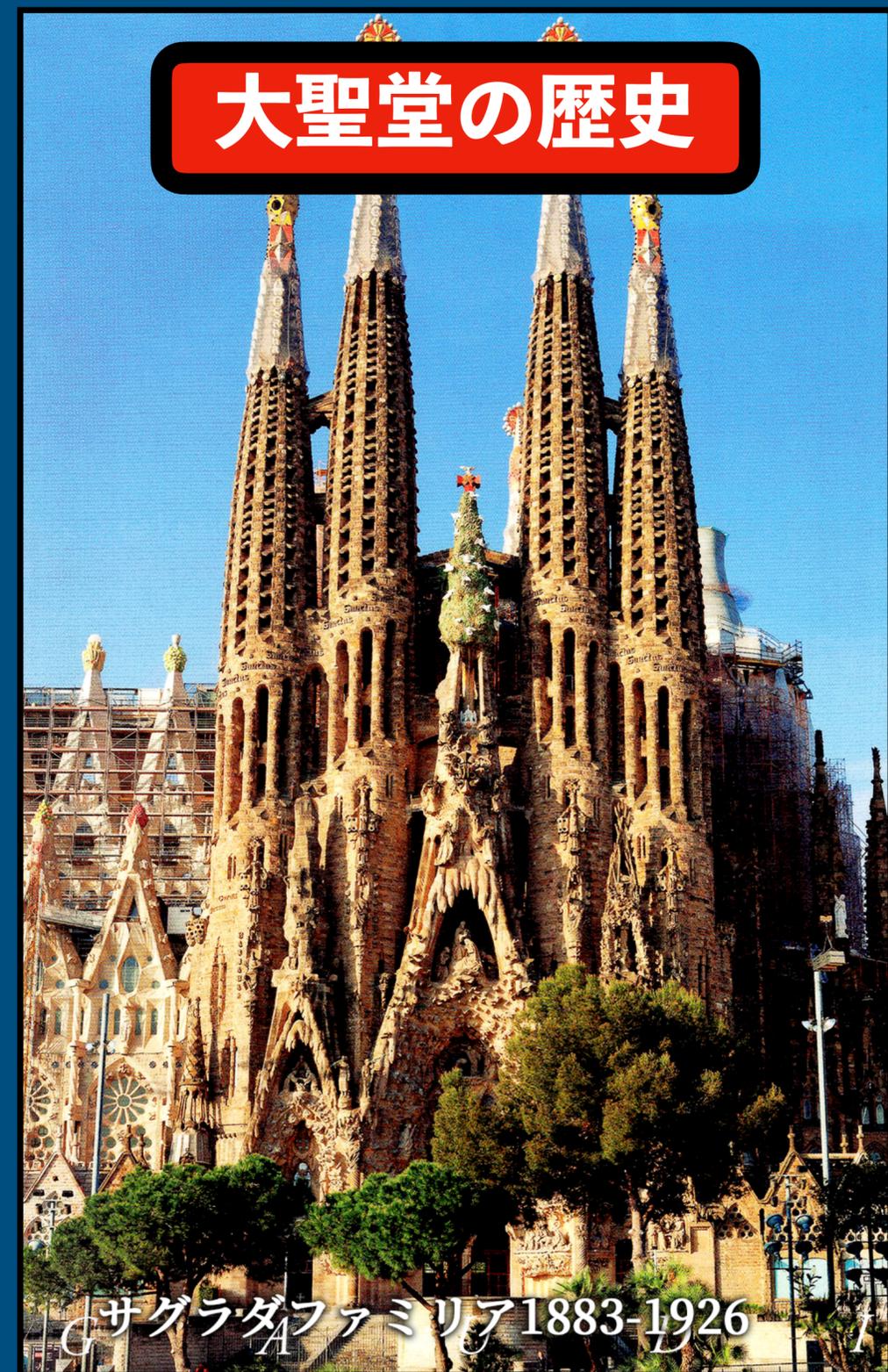
サグラダ・ファミリア贖罪(しょくざい)聖堂
52~74歳
1904-1926

- ガウディの宗教的・芸術的ヴィジョンの全てが結晶化した建築物
- 建築家は総合的人間である。彼はさまざまな事柄をこれらが作られる前に全体からはっきり見る。
- 彼は諸要素を三次元関係の中に適切な距離に位置付け、結びつける。(ガウディの言葉より)

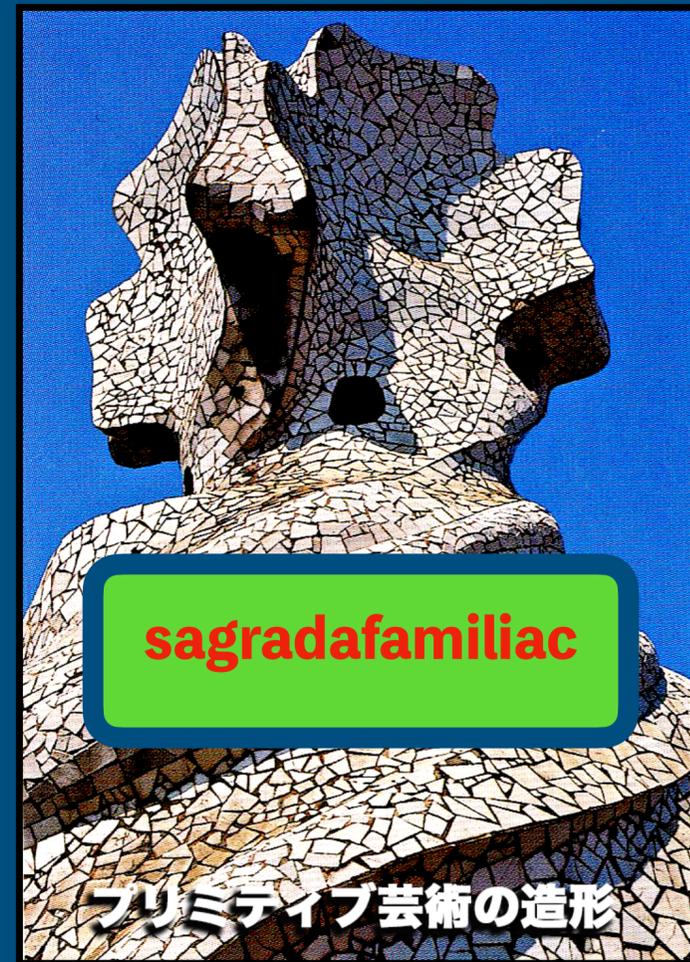
③-1・1904-1926年・(52~74歳)

ガウディの集大成の豊穡な建築作品群

大聖堂の歴史



○ガウディ作品に対する、三つの視点・・・20世紀に入ると、建築作品はいかにもガウディらしい曲線や曲面の豊鏡なものへと変貌する。それら作品の形態解釈をめぐる論究は、彼の人と作品の意味づけに深くかかわるため、さまざまな角度からなされてきた。それらは主に三つの視点に整理されよう。一つ目は、**作品形態の起源を自然の諸形態に求める自然主義的態度**である。二つ目は、**アフリカの住居や鳩舎も含めたプリミティブ芸術の造形との関連を注視する態度**である。三つ目は、シュールレアリストたちが**オートマティスム**（精神自動記述法。意識下の世界を表現するために理性や既成の美学を排除して、観念を速記する手法）の作詩法に基づいて讚美した、フランスの郵便配達夫**シュバルルの偶然的、即興的な制作態度に類縁**を求めるといふものである。



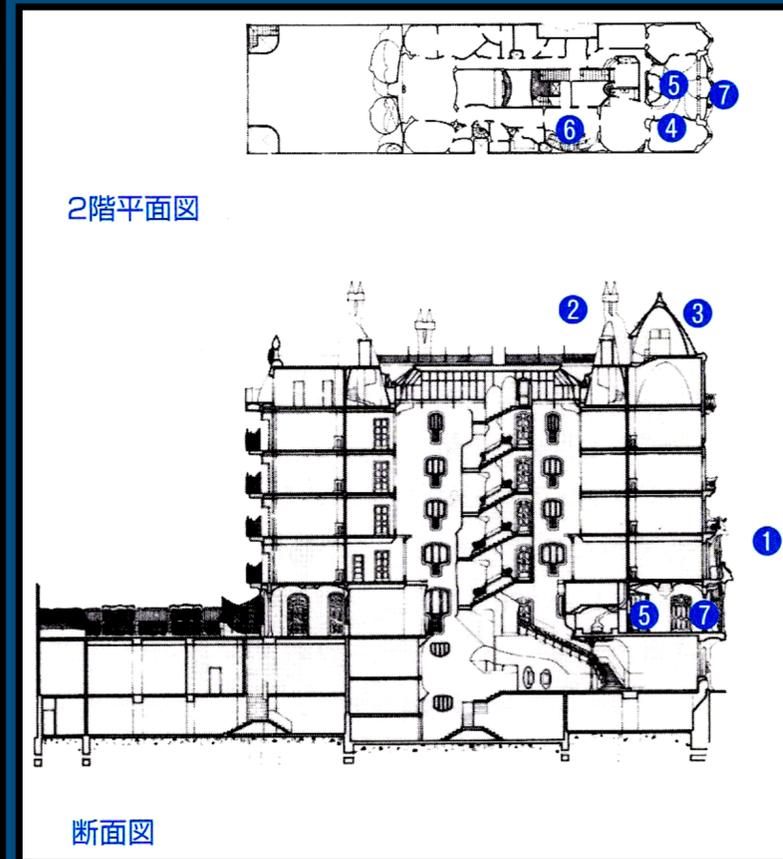
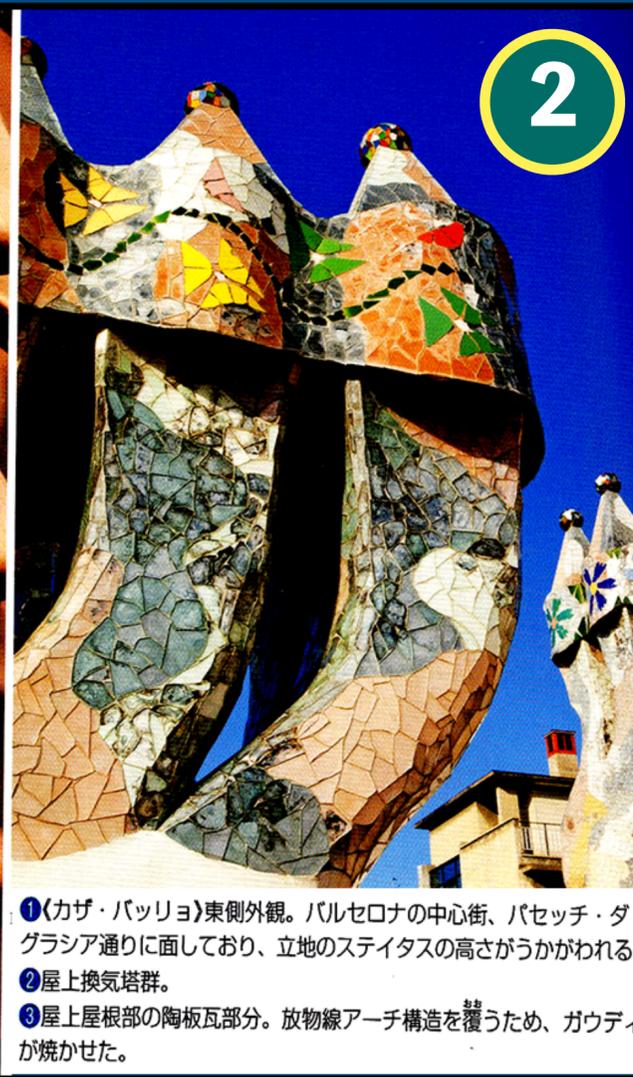
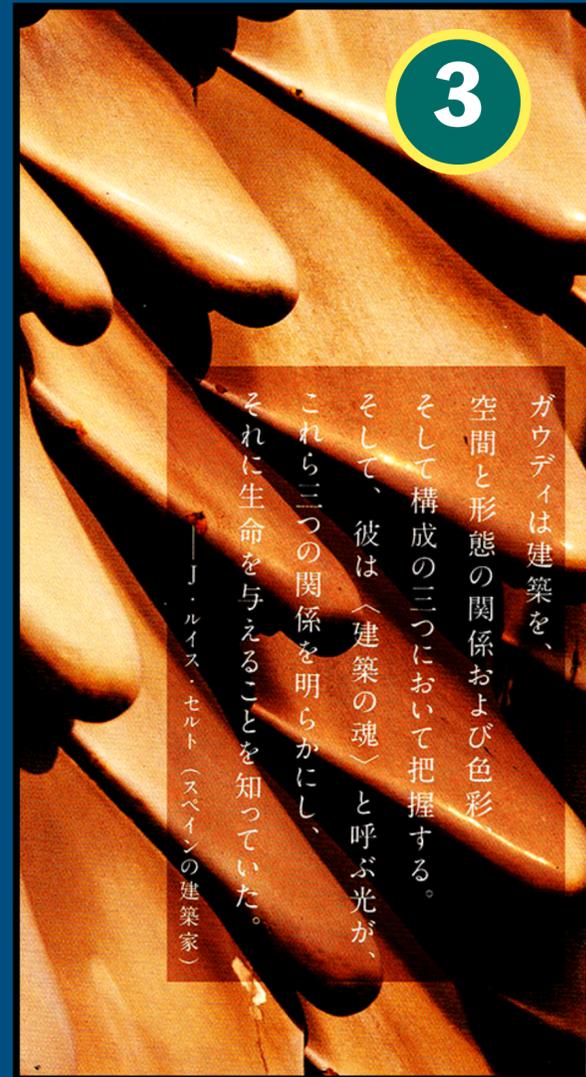
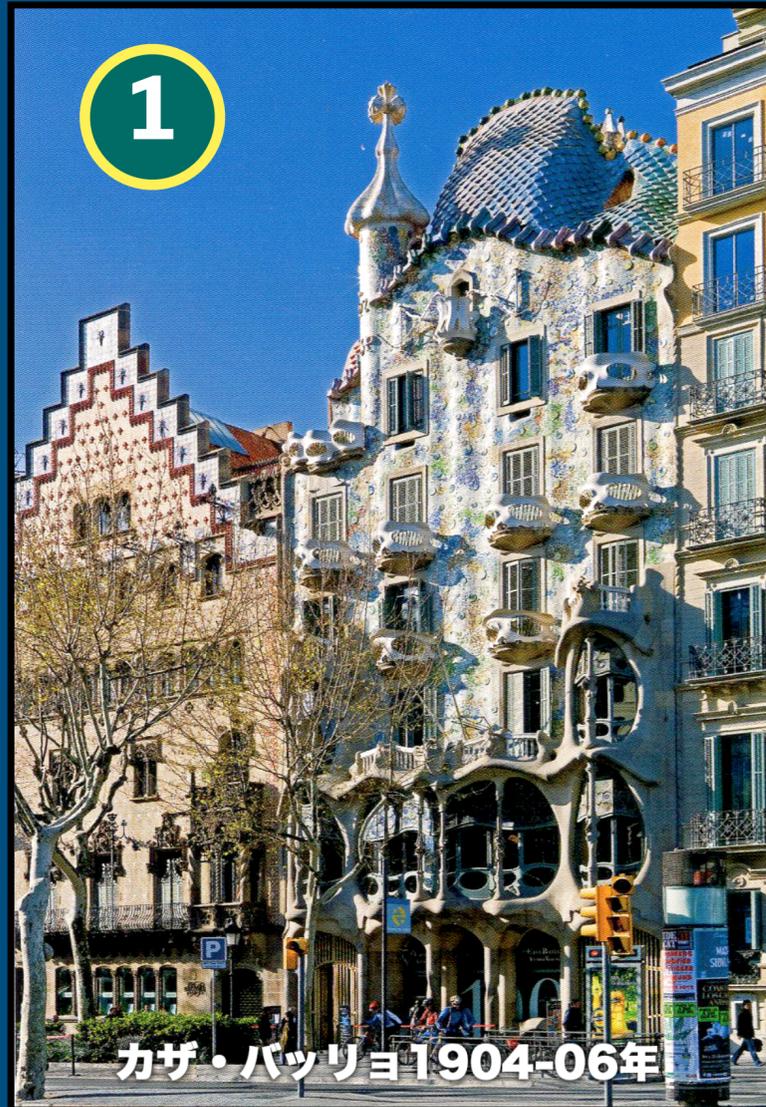
ガウディ

○透視者としてのガウディ・・・ガウディは晩年、見えないものを見る一人の透視者としてあらわれる。「天使の叡智は、平面的に考えることなく、空間の問題を直接的に見られることにある。天使だけが絶え間なく祈ることができる」、あるいは「天使の知性は三次元であり、直接的に空間中で働く」という天使論を展開する。

③-2・1904-06年・(52~54歳)

古典的な建築をガウディらしく変貌させる

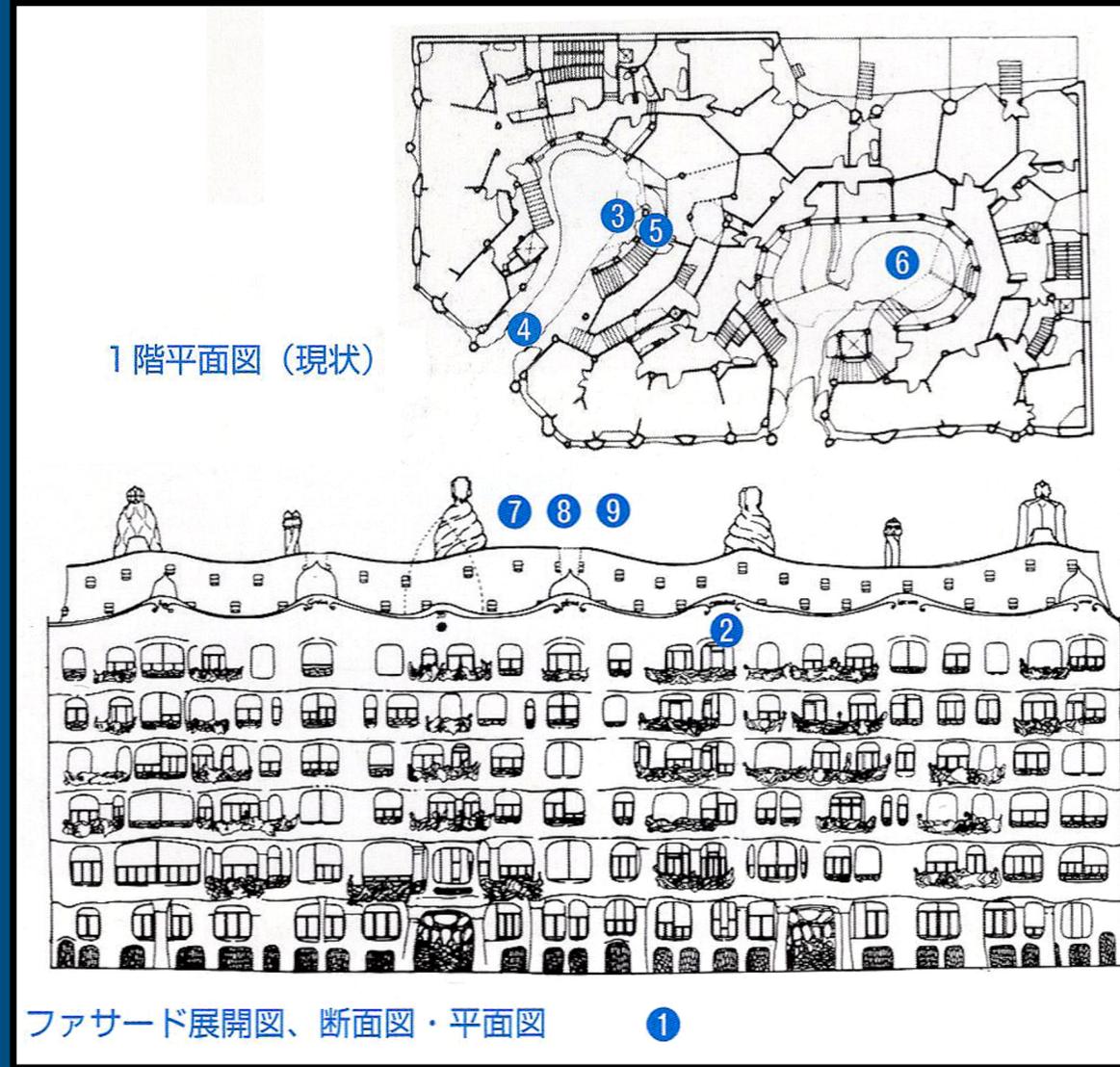
カサ・バトリョ



○バルセロナ、アジャンプラのグラシア通り43番地に位置するカサ・バトリョは、1877年に建設された建物である。大繊維業者ジュゼップ・バトリョ・イ・カザノバスの依頼を受け、1904年から1906年にかけて、ガウディはこの邸宅の改築を行った^①。この改築でガウディは、建物に5階と地下室を加え、玄関広間を広げ、階段や内壁を作り直し、各部屋に曲線的なデザインを持ち込んで、タイルやステンドグラスの装飾を施した。この邸宅の造形には様々な説がある。第一に、屋根の一部が丸く盛り上がり、まるでドラゴンの背中のように見えることから、カタルーニャの守護聖人であるサン・ジョルディの竜退治の伝説をなぞっているという解釈である^②。この解釈によれば塔は聖人の構える槍とされる。カサ・バトリョには、ファサードの石柱が骨を想起させることから「骨の家 (Casa dels ossos)」というあだ名もあるが、竜退治説によればこの骨もドラゴンの犠牲になったものたちの骨と理解されている。

③-3・1906-10年・(54~58歳)

「混乱、無秩序」を象徴する建築的シンフォニー？



カザ・ミラ



建築の歴史

○ 「石切り場」と呼ばれ批判される《カザ・ミラ》・・・《カザ・バウリョ》に続き、バルセロナの中心街パセッチ、ダ・グラシア通りに立ち上げられた、ガウディのもう一つの建築的シンフォニーといえるかもしれない。ワグナーの楽曲に譬(たと)えられるように。人々は表現を失って、それを「ラ・パドレラ(石切り場)」と呼んだ。工事の仮囲いが外された《カザ・ミラ》に騎馬警官が出動する、見物に訪れた人々でごった返す様子の古い写真が残っている。

○ 自然との対応を考えた建物・・・《カザ・ミラ》に向けられた批判や多くのカリカチュアに対するガウディ自身の返答は、コラムで示した。重要なことは、《カザ・ミラ》の形態 マッサと量塊が、バルセロナの町を取り巻くクイサローラやチビダポの丘陵の形態と大きさとの対応によって決定されたということである。

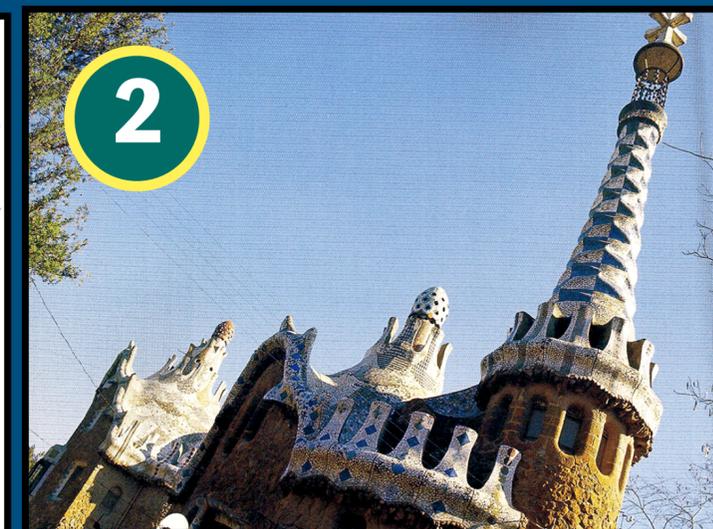
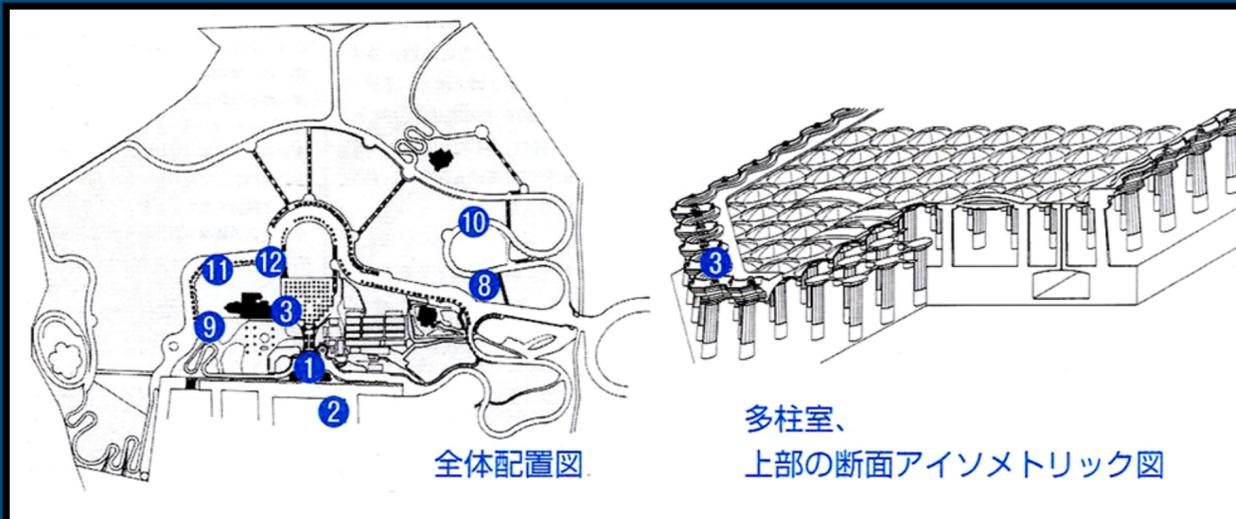
③-4・1900-1914年・(48~62歳)

石と陶片の多様なテクスチャーが展開する公園

グエル公園

観光

バー
チャル



○ **グエル公園**・・・1900年に、**エウゼビ・グエルとアントニ・ガウディの間で共有された夢から生まれました**。当初の目的は、バルセロナに、英国モデル「ガーデンシティ」に触発された新たな住宅地を建設することでした。この理由から、パーク・グエルという英語の名前がつけられました。計画実行のため、エウゼビ・グエルは、「**禿山(はげやま)**」というあだ名のあった、マリアナオ侯爵の郊外の屋敷を含む**広大な土地を取得**しました。当初はバルセロナのブルジョア階級家族用の家を60区画売却するプロジェクトでした。その目的は実現しなかったですが、ガウディが後世に残したものは真の奇跡でした。

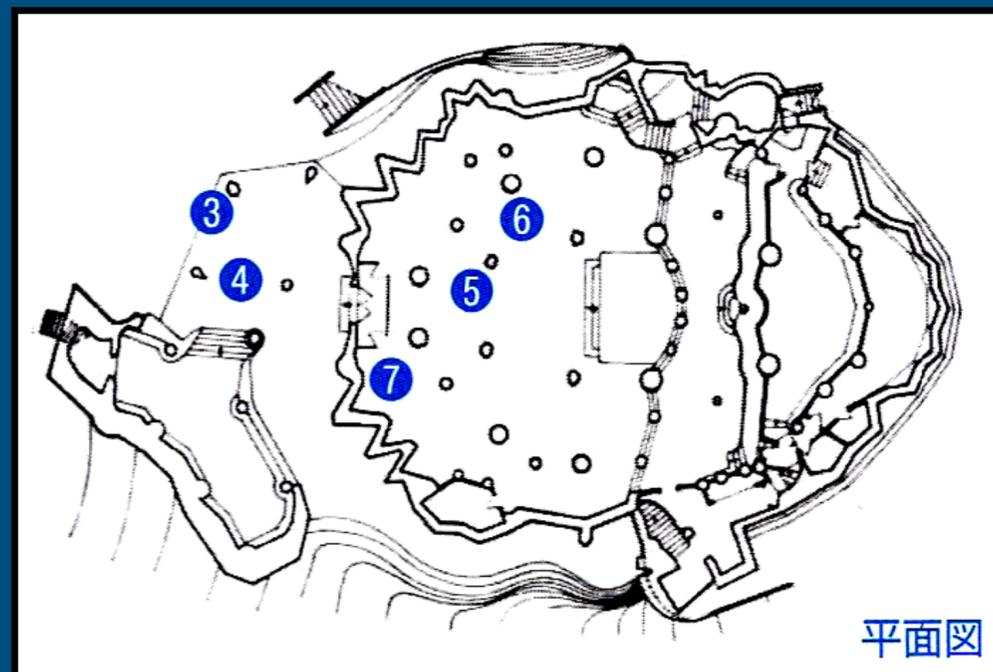
○ 《**グエイ公園**》で展開されたテクスチャー・・・「**装飾**は、対象にあらかじめ想定された性格を与える一手段である。ある場合には**量塊(マッサ)**を強調し、**荒々しさと素朴さだけで自然を感得させる**。こうした効果は大きさ、材料、色彩などによって多様となる」このような装飾の考え方に基づいている。それは、自然を感得させるために、ガウディが徹底的に追求した材料と色彩による表現に他ならない。それゆえ《**グエイ公園**》に見る「**自然**」は、その感をいっそう深める。

③-5・1898-1916年・(46~64歳)

たぐいまれな模型で果敢に試みた宗教建築

コロニア・グエル教会

コロニア・グエル教

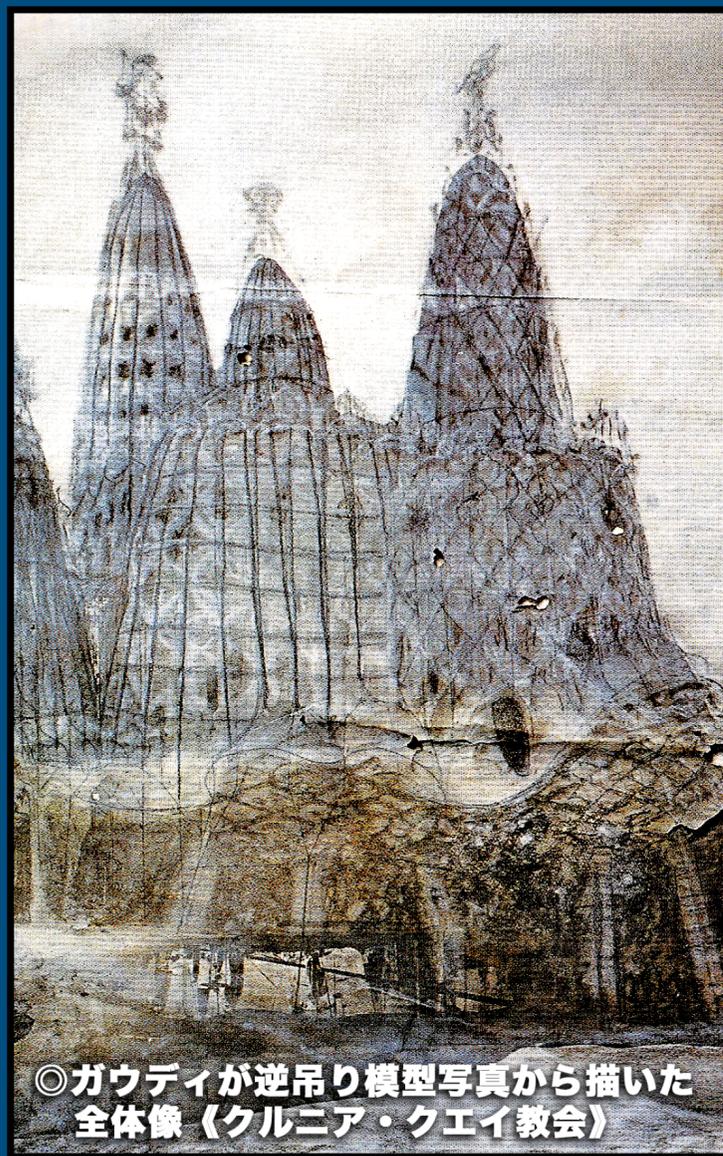
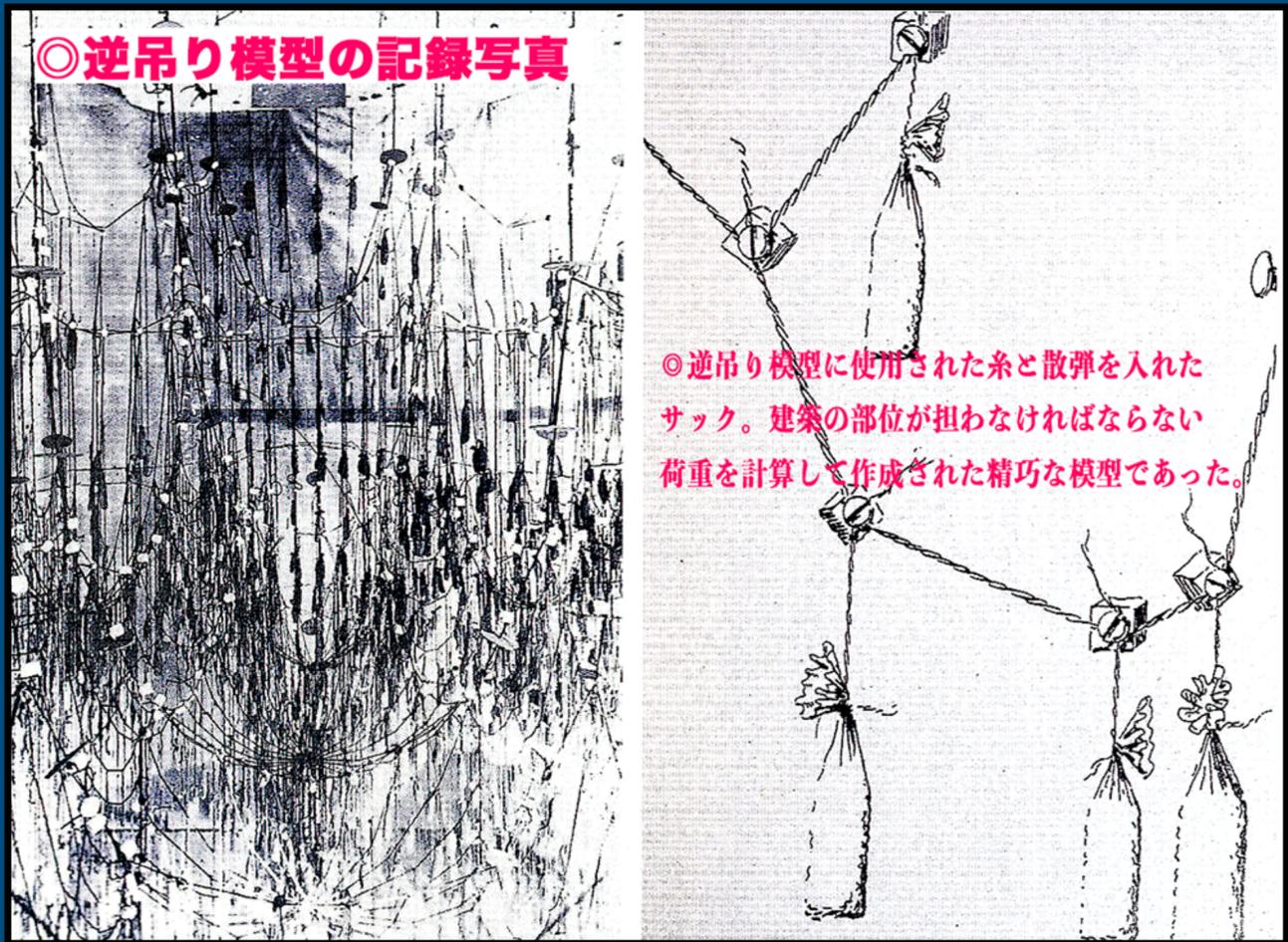


○労働者住宅地の教会設計・・・1898年から1916年にかけてガウディは、バルセロナ近郊に建てる《クルニア・グエイ教会》の計画に携わっている。これは本来、グエイの紡績工場がある都市計画の労働者住宅地計画の最終段階の仕事だった。世紀の変わり目ごろ、バルセロナは階級闘争的な社会不安の状況にあり、蒸気機関で動く最初の繊維工場「バポール・ベイ」の工場長が暗殺される事態にまで至る。そのために、工場と労働者を一体的に取り扱う目的で、この地が新たに求められたのである。

○模型による研究に専念・・・ガウディは、この教会の定礎石が置かれる1908年までの10年間、「立体静力学」と呼んだ模型を駆使して、この建築の構造的安定性の研究に専念した。それは縮尺10分の1の模型である。ヴォールト、アーチ、リブ（補強材）や、荷重を受ける壁などの建築構成諸要素に作用する荷重をあらかじめ設定し、各部に働く応力に見合う散弾入りの小袋を適切な位置に吊り下げた懸垂多角形の網状組織だった。この模型を写真に撮り、形態を上下逆にすることでアーチやリブや壁の傾きを得ると同時に、構造的必要性に基づいて建物全体の形態、建築構成諸要素の形態が決定された。

③-6・1898-1916年・(46~64歳)

ガウディ 建築構造・逆さ吊りの分析



コロニア・グ



コロニア・グエ

◎ガウディにとって**芸術は美であり、美は真実の輝き**であった。真実を求めるために、あらゆる事柄を本質的に研究しなければならない。たとえ建築の骨組み一つ取り上げても、その力学的合理性の徹底的な探求は、彼にとって必須の要件であった。さらに、**造形的形態、典礼機能、光や色彩、そして建築図像学などの問題を解決しなければならぬ**。こうした建築諸要素すべてが相互に有機的に織りなされたところに至ってこそ、**建築は生命をもつもの**となる。ガウディはそう考えるのだ。

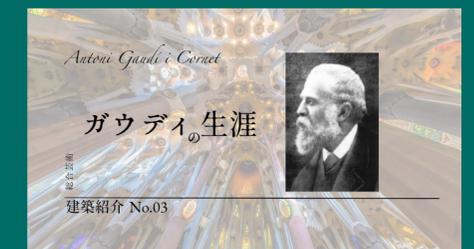
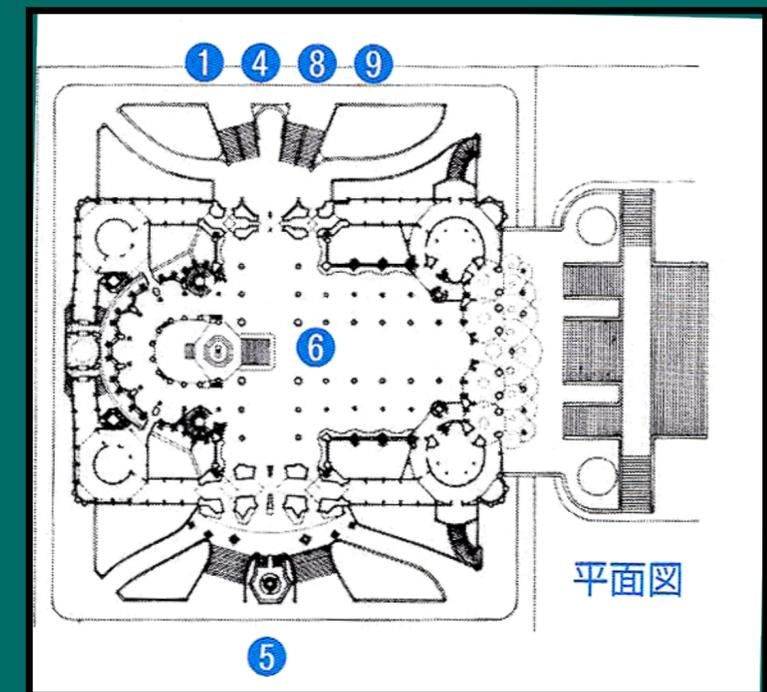
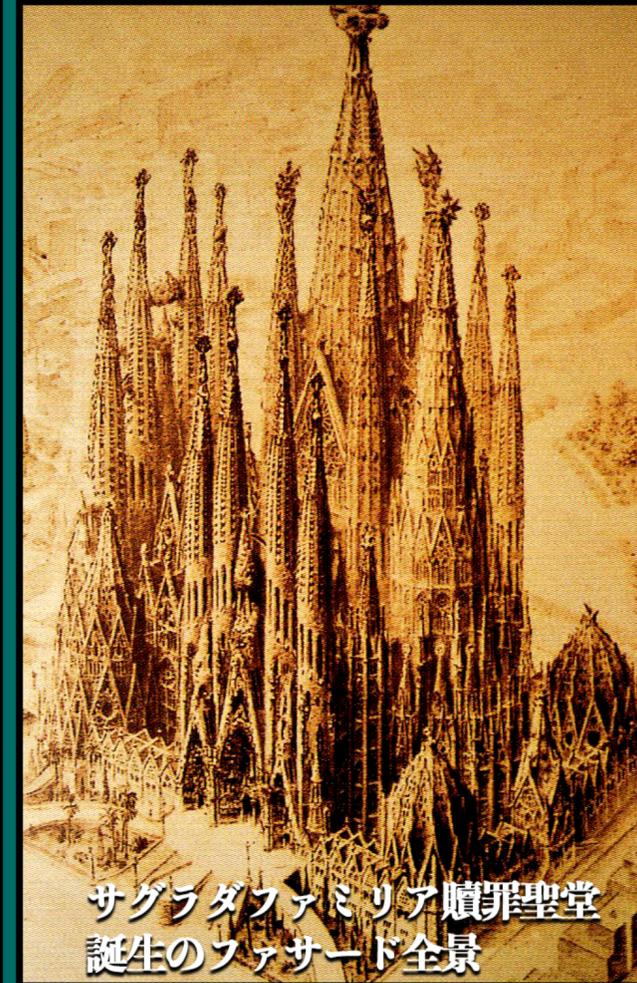
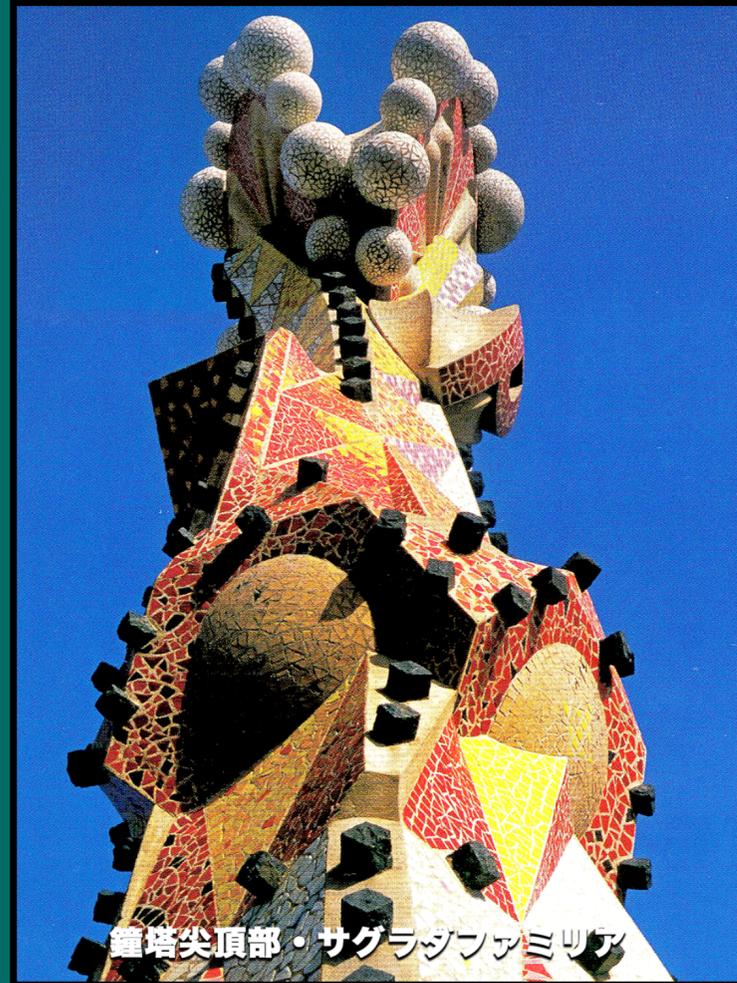
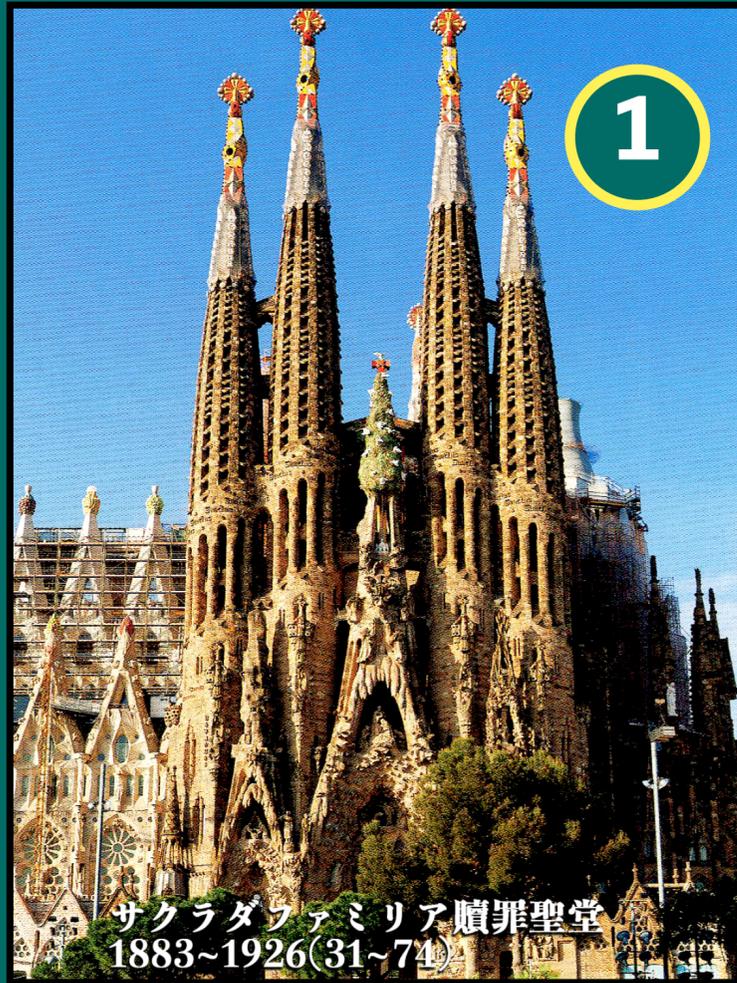
◎1898年からこの試みに10年間を費やしたこと・・・そこに込められた**制作態度と彼の生涯の姿勢**がうかがわれよう。実は彼にとって、何よりも生命に他ならなかったからである。《クルニア・グエル教会》の逆吊り模型システム・・・「クルニア・グエル教会の」逆吊り模型システムは、生命ある総合のヴィジョンへのガウディへの**勁(つよ)い意思と、信仰への痛切な思いの証左**に他ならなかった。

④-1・1883-1926年・(31~74歳)

サグラダファミリア贖罪聖堂

ガウディの宗教的、芸術的ヴィジョンのすべてが結晶化

国立近代美術館監修



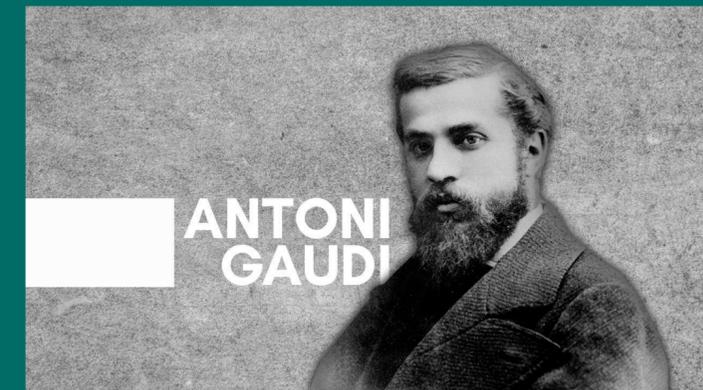
○聖家族に捧げられる聖堂の建設・・・19世紀末、バルセロナでは、ガウディやマルトレイがいずれ深くかかわる大事業が始まっていた。インディアーノスたちに多くを負う富の蓄積と、それと連関するバルセロナの都市計画の進展と連動して、さまざまな分野でカタルーニヤ的なものを希求する「カタルーニヤ・ラナシャンサ運動」が繰り広げられた。経済における資本主義化と生産における機械化が進行するとともに、富めるものと貧しいもの、あるいは実業家と労働者といった階級格差と対立が生まれてくるのもこの時期であった。

○この物質的な繁栄は、宗教的、精神的、信仰心の弛緩(しかん・ゆるむこと)としてとらえる人々がいた。バルセロナの書店主ジュゼップ・マリア・プカベリヤ・パルダゲー(1815~92年)も、その一人であった。彼はカタルーニヤの経済的繁栄が、人々の信仰心に及ぼす精神的な荒廃を憂慮していた。彼は1866年、メルセード教区の区長で、相談相手でもある聴罪司祭ホセ・マリア・ロドリゲスと結んで聖ヨセフ信仰協会を創設した。

④-2・1883-1926年・(31~74歳)

サグラダ・ファミリア贖罪聖堂

YouTubeによるサグラダ・ファミリアの解説をみてみましょう



④-3・1883-1926年・(31~74歳)

サグラダ・ファミリア贖罪聖堂

サグラダ・ファミリアはガウディの代表作か？

○巨匠というのは、どの時代でも孤独なもの。それは創造の世界というのが如何に過酷で孤独な歩みを強いられるかということに関係している。アートの世界では数々の作家が無名で去っていき、後世になって発掘されることすらある。本人は野垂れ死にしてしまうのに、**作品のオーナーは巨万の富を得るというケースも希にはある。しかし、アートの世界と違って建築の世界は、歴史に残る、あるいは人々が感嘆する仕事を成し遂げるのはさらに厄介である。**何故かといえば、もちろん例外がないわけではないが、**建築というのは基本的にクライアントがいなければ仕事にならない、作品が生まれないからだ。**それに独学で建築家になった例もあるにしろ、**建築というのは習作がなければ建築家として育つのは難しい。**これがアートの世界と建築の世界との決定的な違いだろうか。

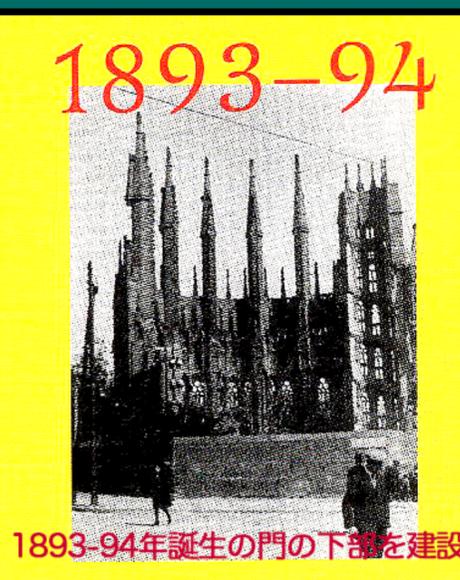
○アントニ・ガウディはぼろ布に包まれて路上で死んでしまったほどに**孤高であった。**しかし現代では、時代を超えてしかも文化圏すら超えて評価され、**天才扱いされる建築家であらアーティストになっている。**このガウディを世に知らしめねのはほかでもない、その建設途中にガウディ自身が世を去ってしまったサグラダ・ファミリア聖堂の存在である。世界中から観光客を呼ぶサグラダ・ファミリアの魅力は多岐にわたっている。建築に興味がない人たちは、科学、技術万能の20世紀にコツコツと石を刻んでいねという壮大なロマンに惹かれるものがあるかもしれない。造形に興味のある人は具象からシュールともいえる摩訶不思議なそれらの混在が興味の対象になっているかもしれない。**建築家達はコンピュータのない時代に複雑なパラボラや3次曲線を見事に操り、特異でオリジナリティに富んだ空間を作ら出していることに驚くのもかもしれない。**しかし、ガウディはサグラダ・ファミリアの聖堂の作者として世界中で知られているものの、実はこの建造物はガウディの代表作ではない。サグラダ・ファミリアは弱冠31歳のほとんど実績もない若造に、ほとんど**偶然に舞い降りたビッグ・プロジェクトだった。**

④-3-1・1883-1926年・(31~74歳)



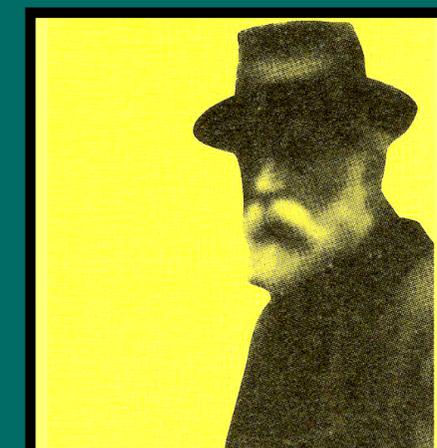
地下聖堂掘削工事

1882



1893-94

1893-94年誕生の門の下部を建設



アントニー・ガウディ
1852-1926

- 1866 宗教書の専門店主ジョセップ・マリア・ボカベージャがサグラダ・ファミリア建設推進のためサン・ジョセップ協会を設立。
- 1877 F・ビジャールが無償で設計を引き受ける。
- 1882 サン・ジョセップの日に当たる3月19日、サグラダ・ファミリア起工式。
- 1883 8月25日、地下聖堂の掘削工事終わる。
ビジャールと建設委員のマルトレイに設計上の意見の食い違いが生じる。マルトレイはサグラダ・ファミリアの建築家にガウディを推薦。
- 1884 ビジャールはボカベージャに脅迫めいた設計料を請求。
ガウディは地下聖堂のサン・ジョセップのチャペル建設の契約にサインする。
- 1885 3月19日、チャペル竣工。地下聖堂で最初のミサが行われる。
- 1890-93 地下聖堂とアプスの一部完成。誕生の門着工。
- 1892 4月22日、ボカベージャ没す。
- 1893-1905 誕生の門の下部を建設。
- 1894-97 誕生の門の両側回廊を建設。
- 1897-1901 回廊のロザリオの門、洗礼の柱、キューボラを建設。
- 1898 誕生のファサード東側の鐘塔の平面を矩形から円形に変更する。^{*}身廊、ヴォールトの最初の案を製作。
- 1899 誕生の門にトランペットを吹く天使像を設置。
王女イサベルが訪問、身なりの貧しさに警護がガウディと確認できず、いざこざが起きる。
- 1900 バルセロナ司教の再三の要求に従い、ガウディは全体計画を提示。
- 1906 サグラダ・ファミリア敷地内に工房を設置（晩年はここに住む）。
- 1908 ^{*}グエルの資金提供により誕生の門の模型作成。ジュジョールが彩色を施し、1910年のパリの「ガウディ展」に送られる。
- 1909 11月15日、バルセロナ司教の出席のもと付属学校が開校。
- 1914 第一次世界大戦勃発。ガウディはサグラダ・ファミリアに専念。
ガウディは故郷の農地を売却し、サグラダ・ファミリアの借金返済に充てるも負債は3万ベセタにのぼる。ガウディは工事中止の提案に反対、教会建設の意義を唱え、午後は帽子をもって寄付運動をする日々を送る。この頃、作業員わずか30人。
- 1915 チューブ状の鐘をテストする。ガウディは友人や知り合いにサグラダ・ファミリアの建設資金の寄付を募る。
- 1918 サン・ベルナベの塔の石部分が完成。ガウディは建設の長期化を認識、後年の建設者のために設計の方針を立てる。
- 1919 「親友は皆死んでしまった、家族はいない、財産もなにもない。これでサグラダ・ファミリアの建設に集中することができる」というガウディの言葉を、弟子のベルゴスが書きとめる。

サグラダ・ファミリア贖罪聖堂

サグラダ・ファミリアとガウディの歩み

- 1925 サン・ベルナベの塔のモザイク部分が完成。
- 1926 1月22日、最初の鐘塔の先端部がヴェネチアン・ガラスによって覆われて完成する。
6月7日、グラン・ビアで市電30番にはねられたガウディは、同10日、搬送先のサンタ・クルス病院で没す。同12日、サグラダ・ファミリアの地下聖堂で葬儀。
- 1927 シモンの鐘塔が完成。
- 1929 タダイの鐘塔が完成。
- 1930 マタイの鐘塔が完成。
ガウディのデザインによるシモンとタダイ両塔間のイトスギ（生命の樹）が、ドメネク・スグラーニェスによって完成。
- 1934 信仰の門の入口の妻部分が完成。
- 1935 希望の門の入口の妻のサン・ホセ（ヨセフ）の像が完成。
- 1936 希望の門、信仰の門の入口の妻が完成。
7月17日、内戦勃発。同20日、地下聖堂、工房が火災に遭う。アーカイブや模型が破壊され、ボカベージャの墓も荒らされる。
- 1938 スグラーニェス没。
- 1939 4月1日、内戦が終結。壊された学校の再建、地下聖堂の修復を開始。
- 1951 壊された模型の修復を開始。
- 1959 誕生の門中央入口上にハイメ・ブスケッツによるキリスト降誕の彫刻群が設置される。
- 1966 ハイメ・ブスケッツによる受胎告知の彫刻群が完成。
- 1973 鐘塔、70メートルに達する。
- 1976 受難のファサードの鐘塔先端部が完成。
- 1986 ジョセップ・マリア・スピラックスが受難のファサードの彫刻を開始。
- 1987 スピラックスによる「キリストの鞭打ち」が受難の門に設置される。
- 1992 バルセロナ・オリンピック開催。
- 2005 誕生のファサード、地下聖堂がアントニ・ガウディの作品群としてユネスコの世界遺産に登録される。
- 2006 サグラダ・ファミリア直下の高速鉄道AVEトンネル掘削の際、教会は行政当局に届け出ていない違法建築と判明したが、超法規的に認められる。
- 2010 ^{*}身廊が完成。11月7日、教皇ベネディクト16世がサグラダ・ファミリアでミサを執行、バシリカ聖堂として献堂される。
- 2013 9月、9代目工事責任者のジョルディ・ファウリが、ガウディ没後100年に当たる2026年に完成予定と発表。

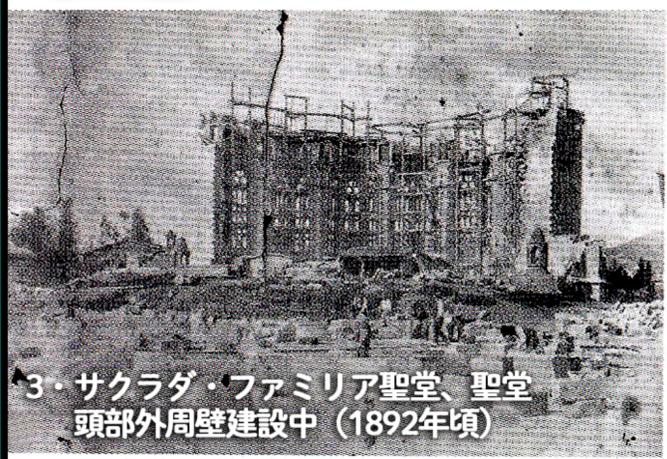
④-4・1883-1926年・(31~74歳)

サグラダ・ファミリア聖堂の足跡をたどる

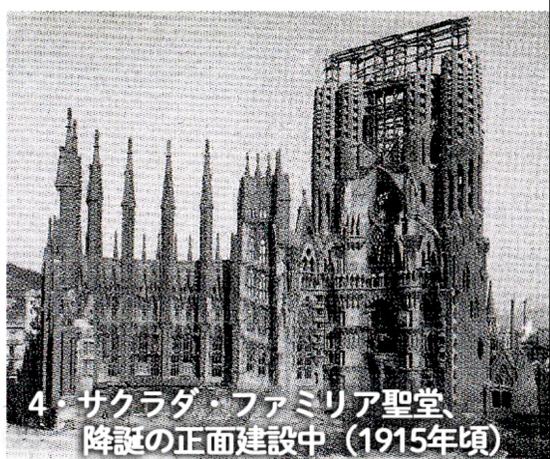


1・サグラダ・ファミリア聖堂の建築現場のアントニ・ガウカ (1916年頃)

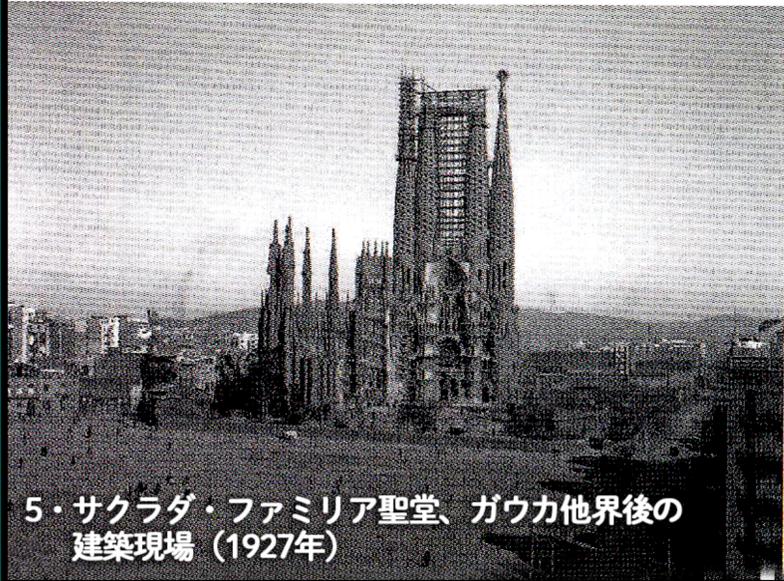
2・サグラダ・ファミリア聖堂建設現場、ガウディが主任建築家を後継した (1883年頃)



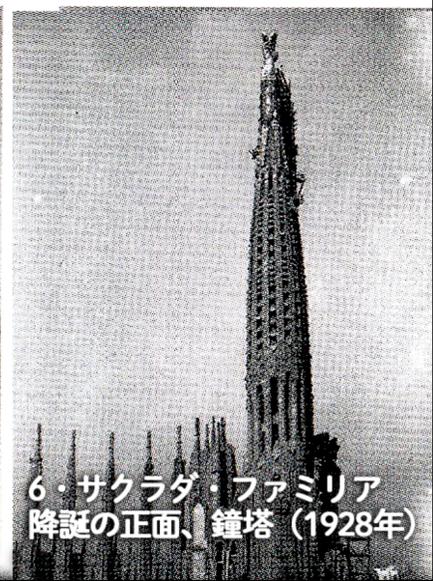
3・サグラダ・ファミリア聖堂、聖堂頭部外周壁建設中 (1892年頃)



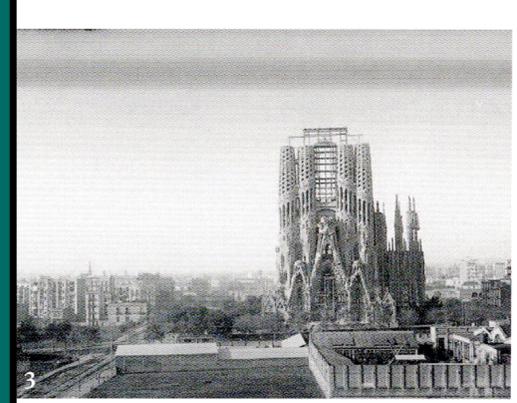
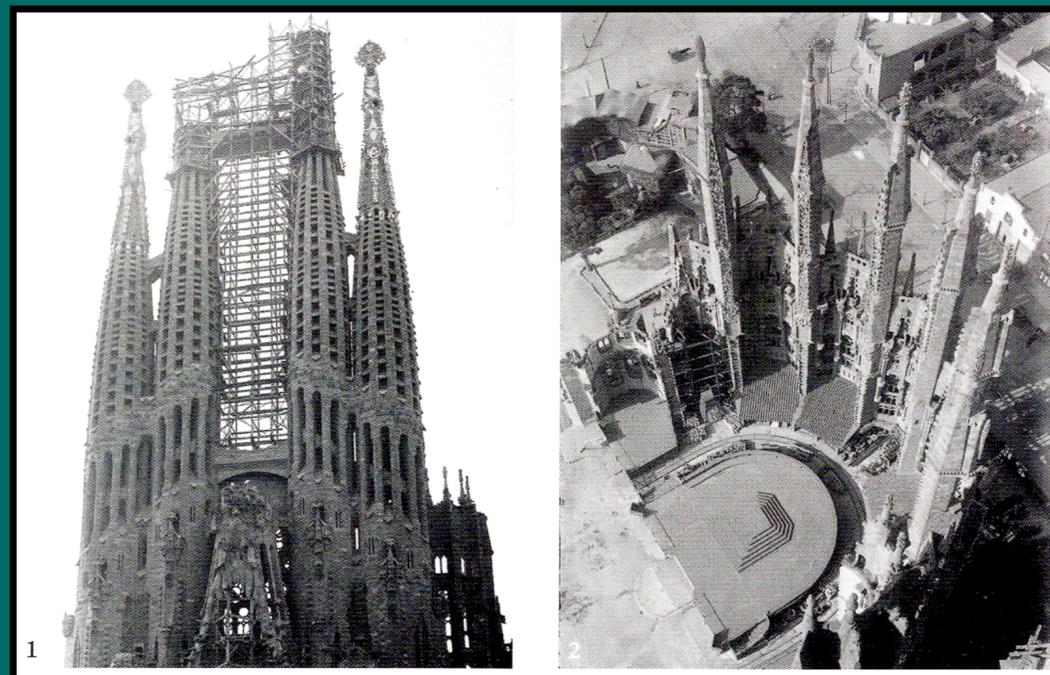
4・サグラダ・ファミリア聖堂、降誕の正面建設中 (1915年頃)



5・サグラダ・ファミリア聖堂、ガウカ他界後の建築現場 (1927年)



6・サグラダ・ファミリア降誕の正面、鐘塔 (1928年)

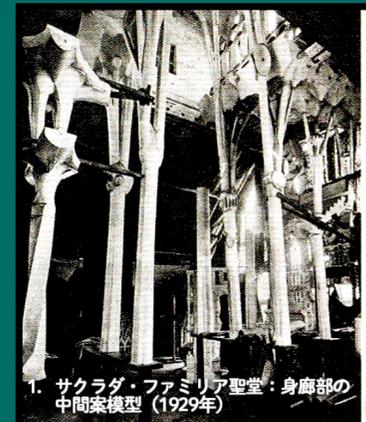


- 1. サグラダ・ファミリア聖堂、完成した2鐘塔の降誕の正面 (1928年)
- 2. サグラダ・ファミリア聖堂、降誕の正面の鐘塔からの聖堂頭部 (1928年)
- 3. サグラダ・ファミリア聖堂、降誕の正面建設中 (1917年頃)
- 4. サグラダ・ファミリア聖堂、仮設学校 (1908 ~ 09年)
- 5. サグラダ・ファミリア聖堂、事務所が破壊された1936年7月21日の火災

国立近代美術館

聖堂建設の裏側

完全解説



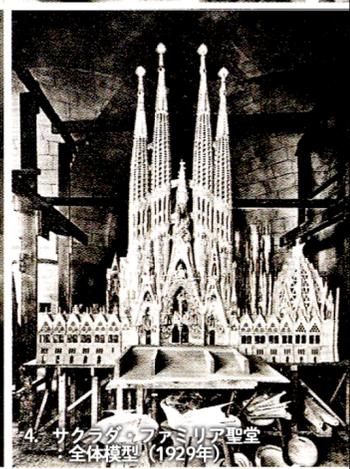
1. サグラダ・ファミリア聖堂：身廊部の中間案模型 (1929年)



2. サグラダ・ファミリア聖堂：身廊部ヴォールト天井模型 (1928年)



3. サグラダ・ファミリア聖堂：模型室 (1927年頃)



4. サグラダ・ファミリア聖堂：全体模型 (1929年)



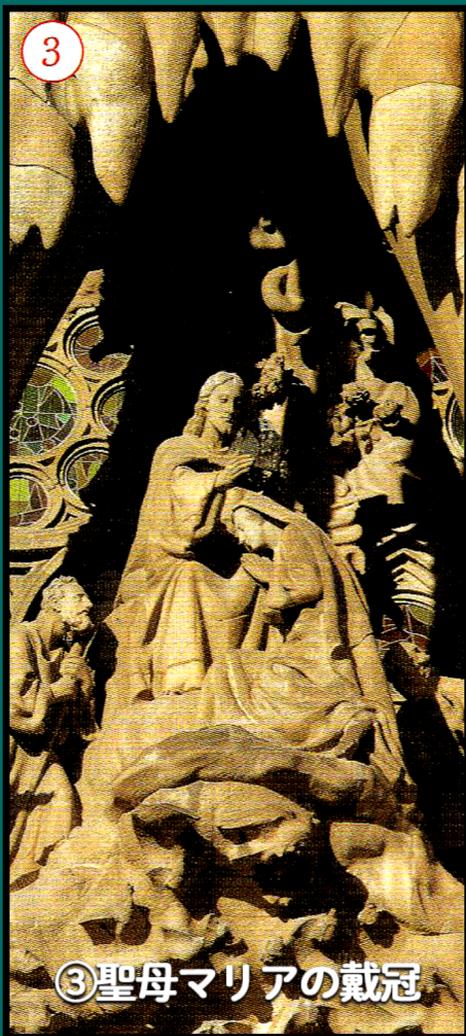
5. サグラダ・ファミリア聖堂：彫刻室 (1917年頃)



6. サグラダ・ファミリア聖堂：模型室で働く職人たち (1917年頃)

④-5・1883-1926年・(31~74歳)

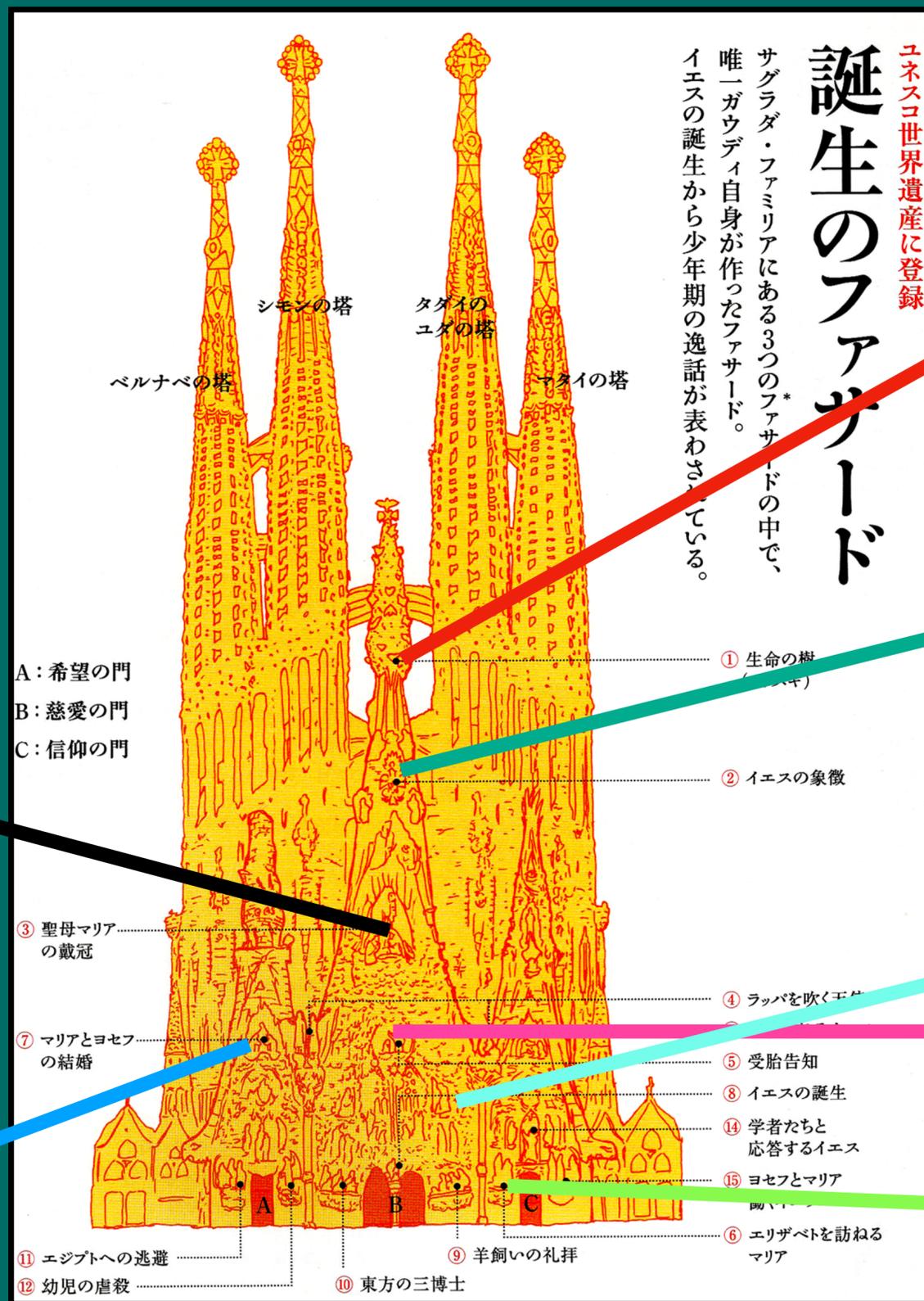
誕生のファサード(ユネスコ世界遺産に登録)



③聖母マリアの戴冠



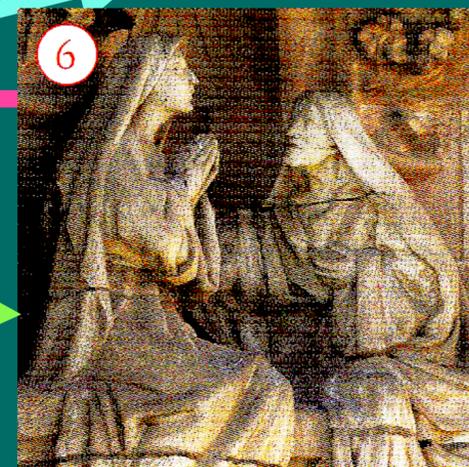
⑦マリアとヨセフの結婚



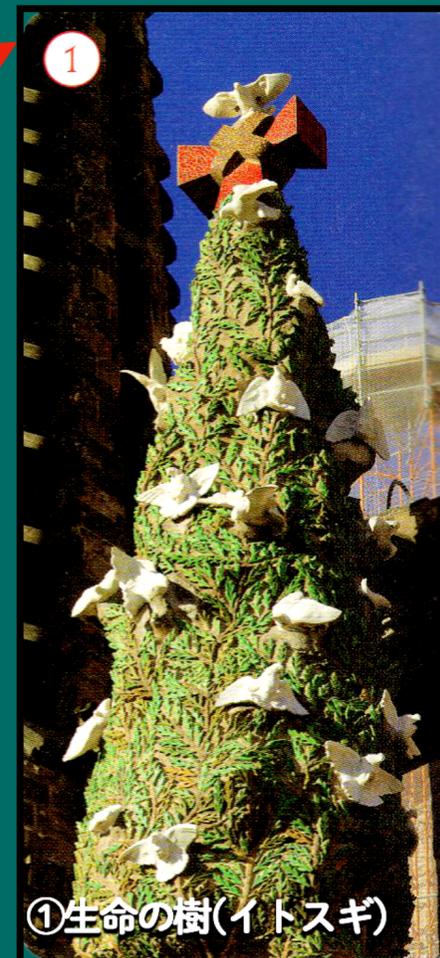
②イエスの象徴



④ラッパを吹く天使



⑥



①生命の樹(イトスギ)



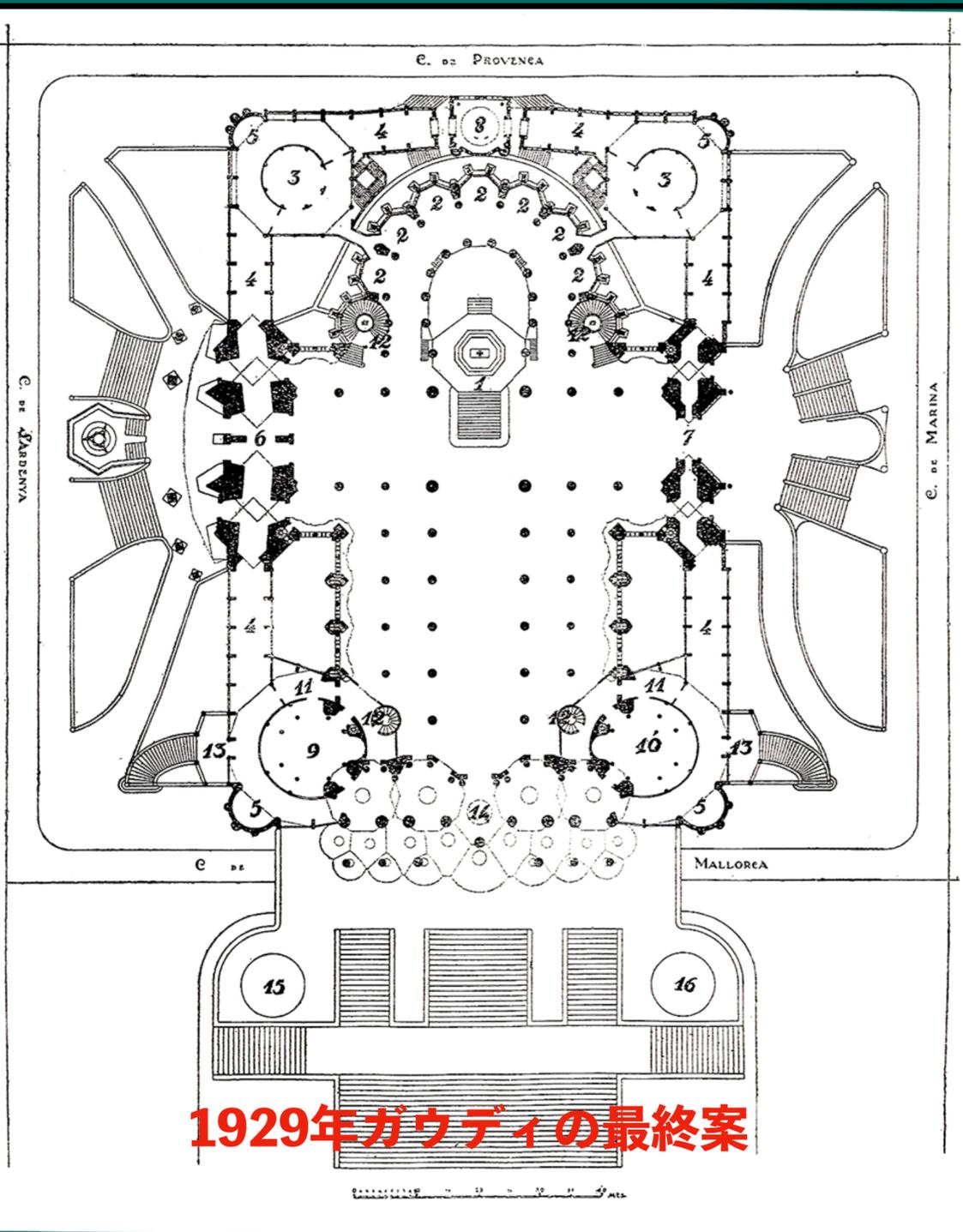
⑤受胎告知

④-6・1883-1926年・(31~74歳)

サグラダ・ファミリア聖堂の構想と説明

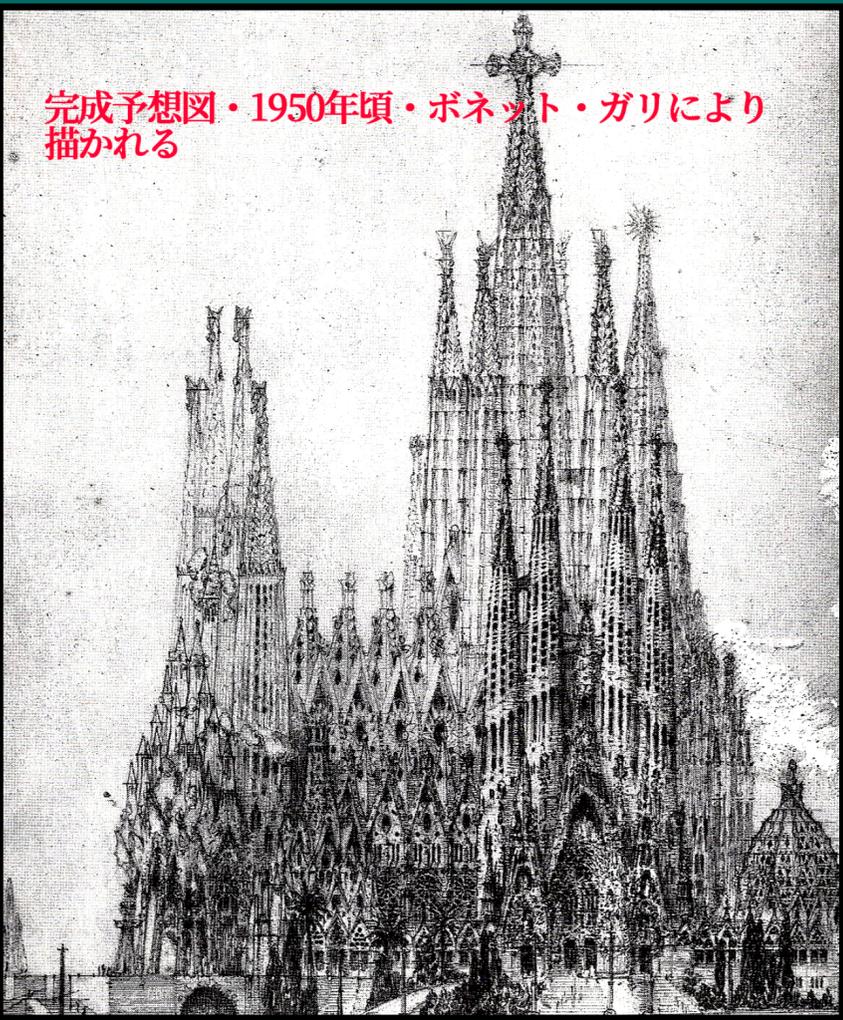
ガウディの街
バルセロ

設計のプロセス

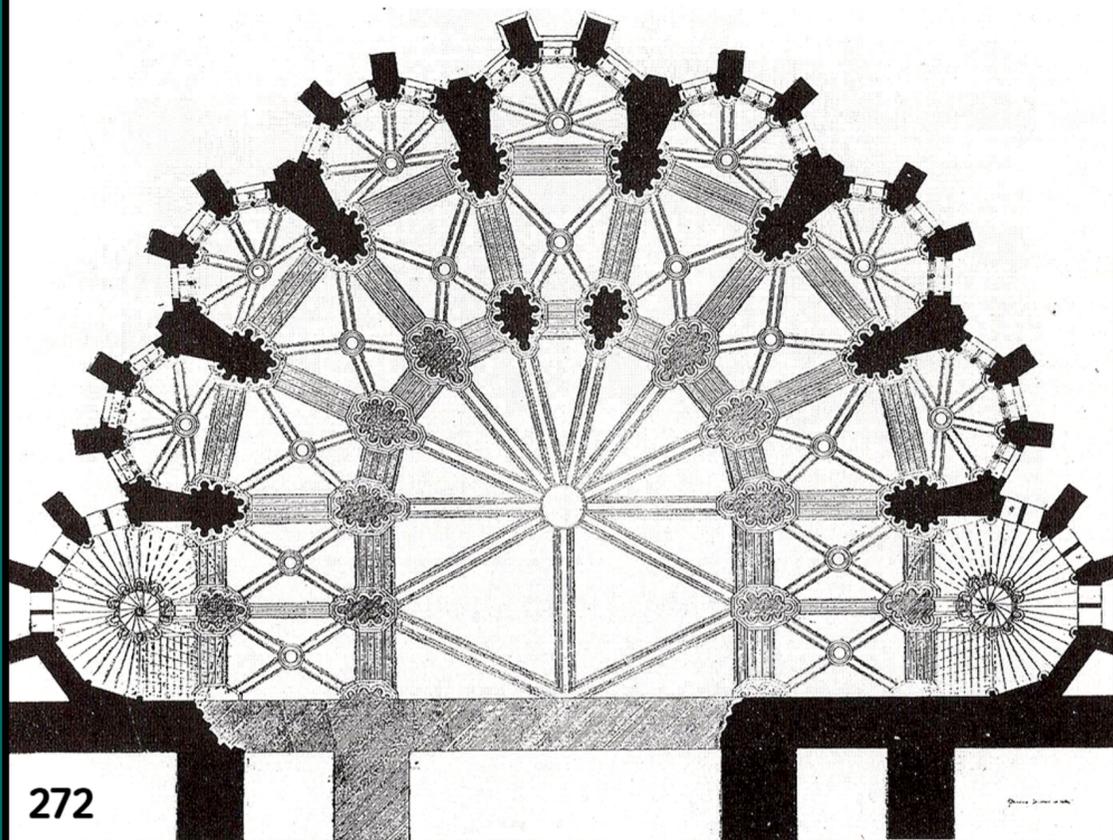


1929年ガウディの最終案

○ 創建者・建築主は、ホセ・マリア・ボカベリャ（1815-92），宗教書を出版する書店主。同人が設立した「サン・ホセ帰依者」。創建者とその娘夫婦の死後は、バルセロナ司教が任命する建設委員会が建築主の役割を演ずる。○ サン・ホセ協会設立。1874至宝主立の提案。○ 1881年，建設地購入。初代建築家F.P.リヤール・ロサーノにより地下礼拝堂着工。○ 1883年，前者の辞任に伴い，ガウディが二代目建築家に就任。○ 地下礼拝堂サン・ホセ祭室落成。○ 1887年，地下礼拝堂の建設終了。○ 1888-89年」第一期建設中断危機，ほぼ建設中断。○ 1890年，会頭部外周壁着工。1893年，前者の終工に伴い，御生誕の正面とそれと会頭部の階段塔，および，翼廊北壁が着工。○ 1894前正面両側の回廊部着工。○ 1895年，第一期委員会設立。○ 1899年，階段塔・翼廊北壁終工。回廊部入口「ロザリオの MARIA の扉口」は19001年までに完成。○ 1903-06年，第二期中断危機負債はなく，建設も中断せず。○ 1906年，ガウディが抱く聖堂完成図初好評。



地下礼拝堂, 1882-87

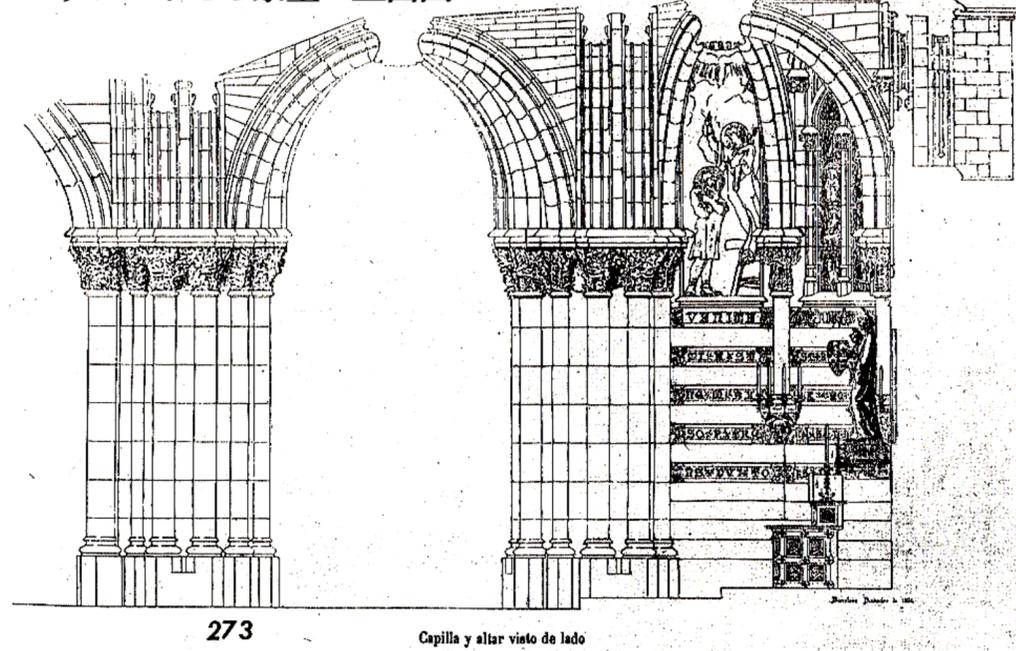


272

○272. 平面, ガウディ図面・・・1884年12月。黒塗り部は前任建築家ビリヤールにより着工され, ガウディが就任した時には, 外周壁はアーチ起供点の高さまで, 束ね柱のもっとも建設が進んだものは**4mほどの高さ**に達していた。この平面形は変更できず, 上層の会頭部の平面形にそのまま反映した。幅44mX奥行30m。放射状条室は 聖家族と親族の聖人に捧げられた。サン・ホセの祭室を中心として, イエス, 聖母マリア, その両親ホアキンとアナ, 聖母の従姉イサベル, その子の洗礼者のホアンの祭室が並ぶ。

クリプタ (地下礼拝堂)

サン・ホセの祭室・立面図



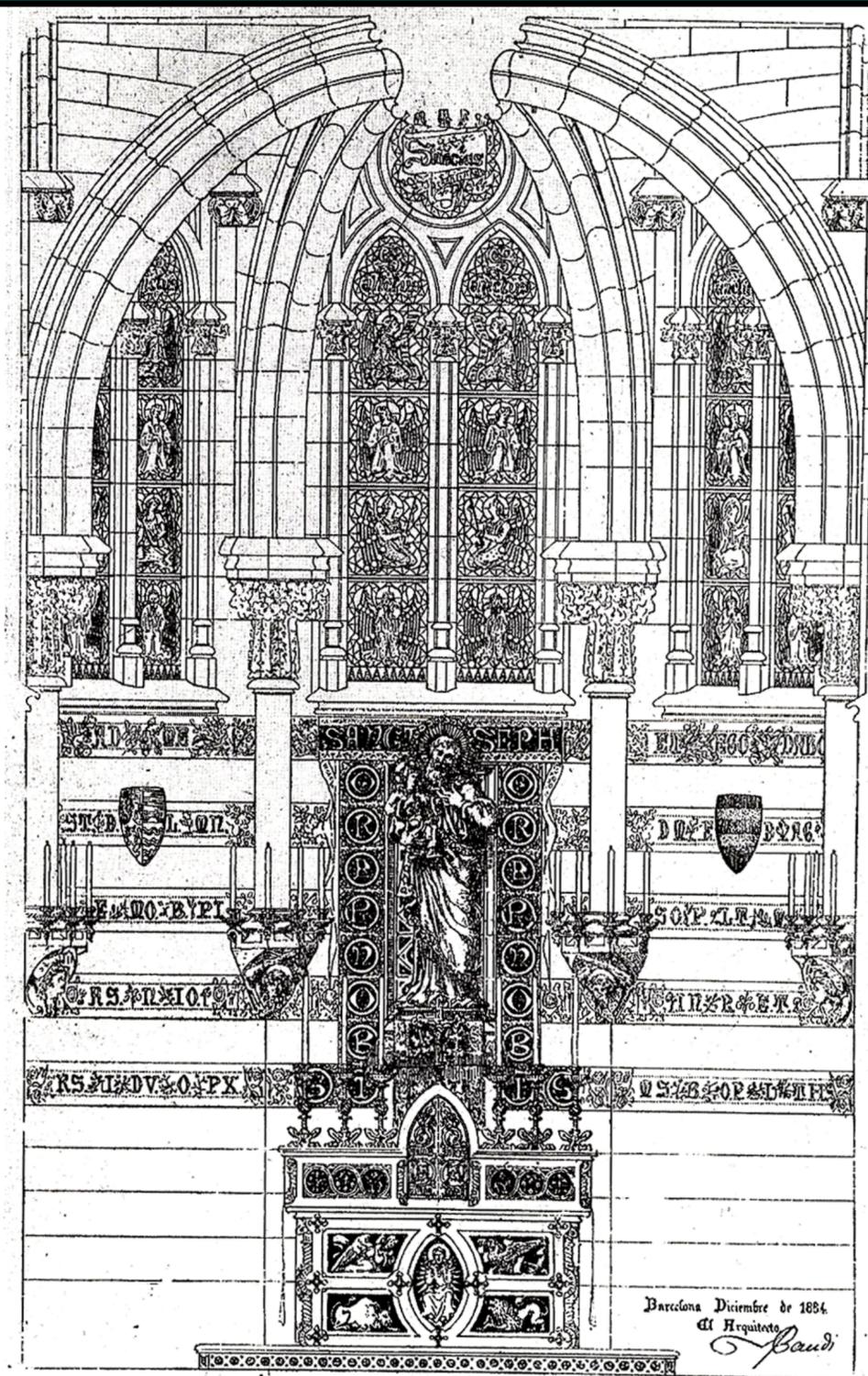
273

Capilla y altar visto de lado

○273, 274. サン・ホセの祭室, 立面・断面図・・・ガウディ自筆の図面, 1884年12月。落成式, 1885年3月。幼子イエスをかかえたホセ像(高さ2.2m, 彫刻家サラの作品)を中心とし, ステンドグラスや燭台の持ち送りに天使像, 大理石の祭壇前面には青ガラスを下地に神と福音書家のシンボルが描かれる。



サン・ホセの祭室・断面図・ガウディ自筆の図面



274

Capilla y altar visto de frente.

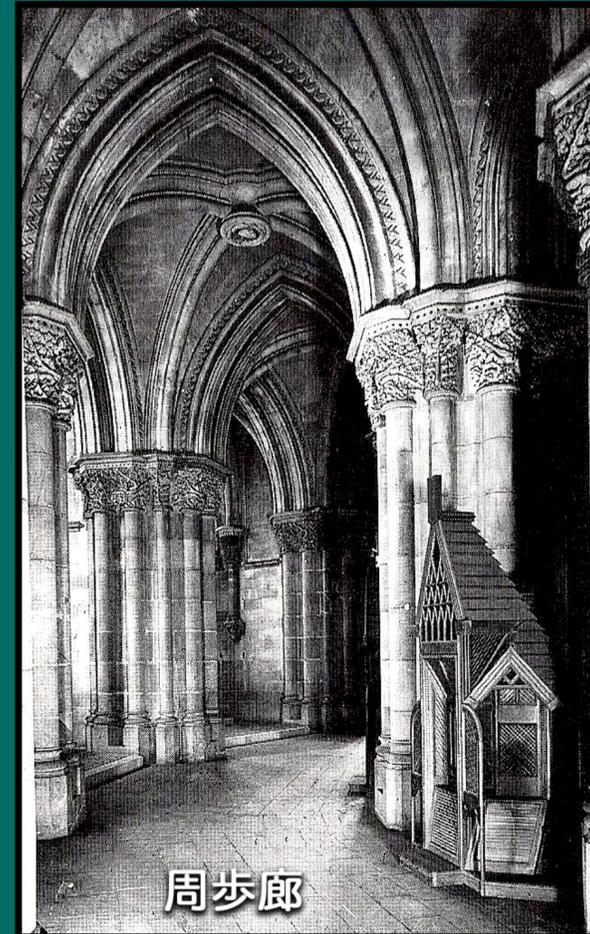
Barcelona Diciembre de 1884.
El Arquitecto
Gaudí

④-7・1883-1926年・(31~74歳)

聖堂の放射状祭室側から見た内観と説明



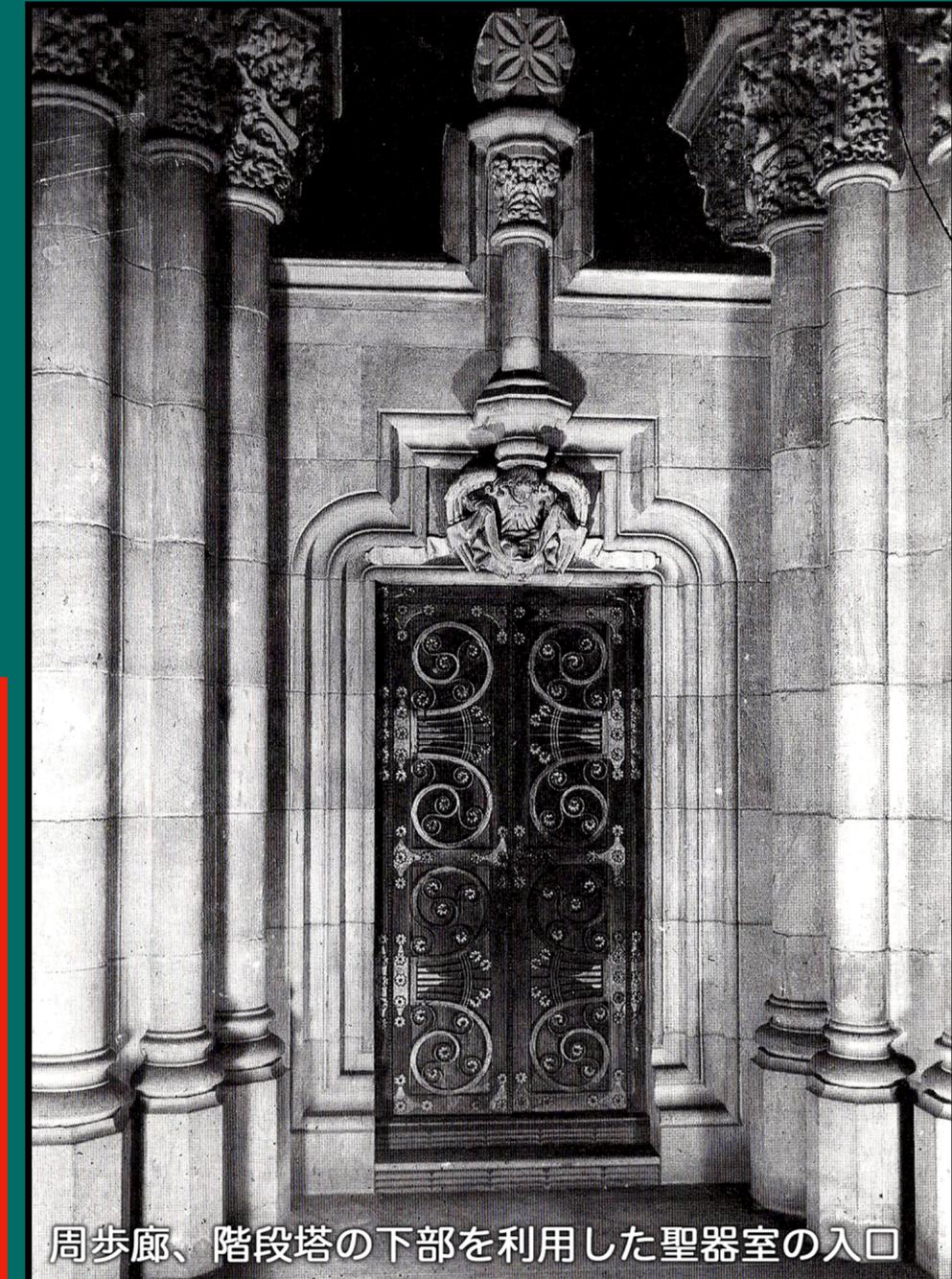
内観、放射状祭室から見る



周歩廊

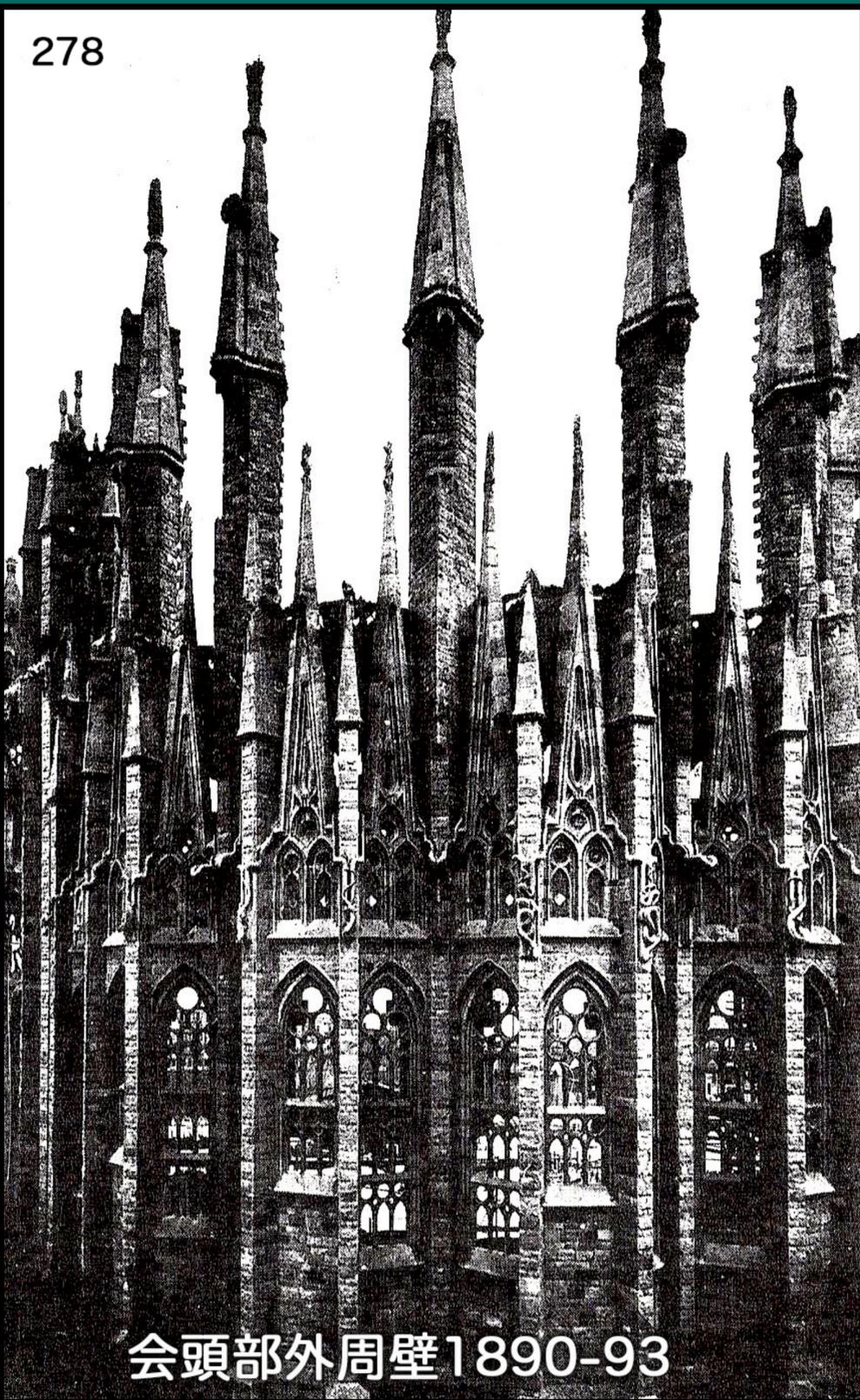
○275. 内観，放射状祭室側から見る。前任建築家により着工されたとはいえ，ガウディはまだ様式主義から一歩も脱せぬままである。身廊中央部にはロレート（イタリア）教会堂にあるナザレの聖家族の家のイミテーションが設置される予定。ただ，周辺地区に教区教会堂がないため，1907年より，この地下礼拝堂が代理教会堂として使用される。サン・ホセの祭室の反対側のサドラダ・ファミリアの祭室が，主祭壇に転用される。

○276. 周歩廊・・・この天井は半円形身廊の天井よりも低い。この高低差を利用し，上層の会頭部局歩廊より身廊側に採光。したがって，内陣の床面は聖堂床面一般より2mほど高くなる。リヤール案にガウディがなし得た唯一の大変更であった。右手前はガウディ作の懐悔室



周歩廊、階段塔の下部を利用した聖器室の入口

278



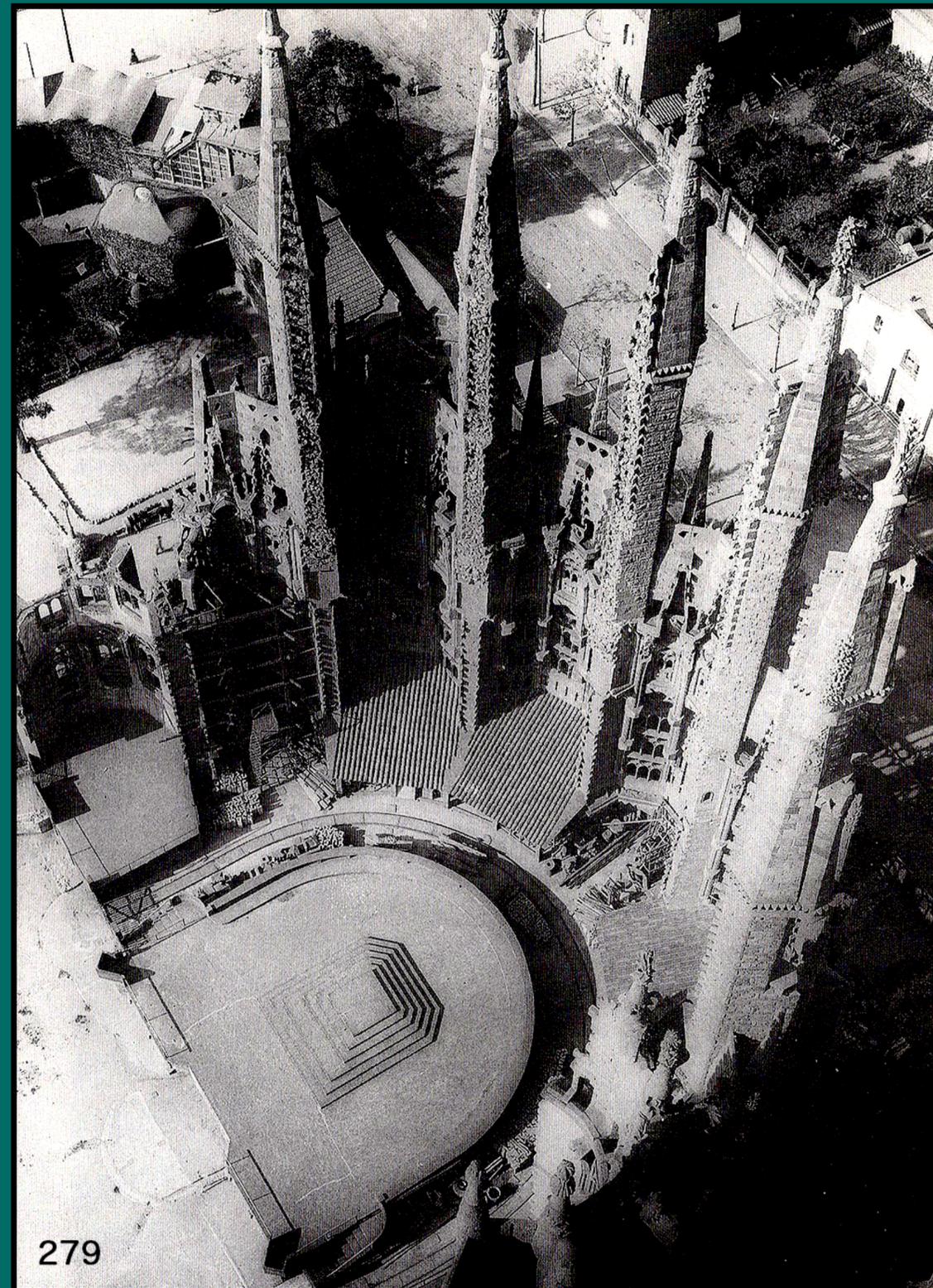
会頭部外周壁1890-93

外周壁と植物

外周壁と植物

○ **会頭部外周壁, 1890-93** . . . 外観。
 平面がビリヤールに負うとすれば、外壁構成も同建築家の実に似て、全体的により縦長のプロポーションになっている。角柱の尖塔は周辺の野原で見つけた植物の穂を石化したもの。放射状祭室外周壁頂部には、各々異なる植物—シュロ、月桂樹、オリーブ、バラ、センダン、糸杉、リバノ杉、が刻まれる。雨水落口には、中世建築よろしく、爬虫類が選ばれ、イモリ、ドラゴン、ワニ、トカゲ、カエル、ガマ、ヘビ等が刻まれた。角柱上部の台座には、七つの主要修道会の創始者像が予定されている。外壁はモンジュイック産の硬質砂岩、窓枠や内壁はビリャフランカ産の石灰岩。

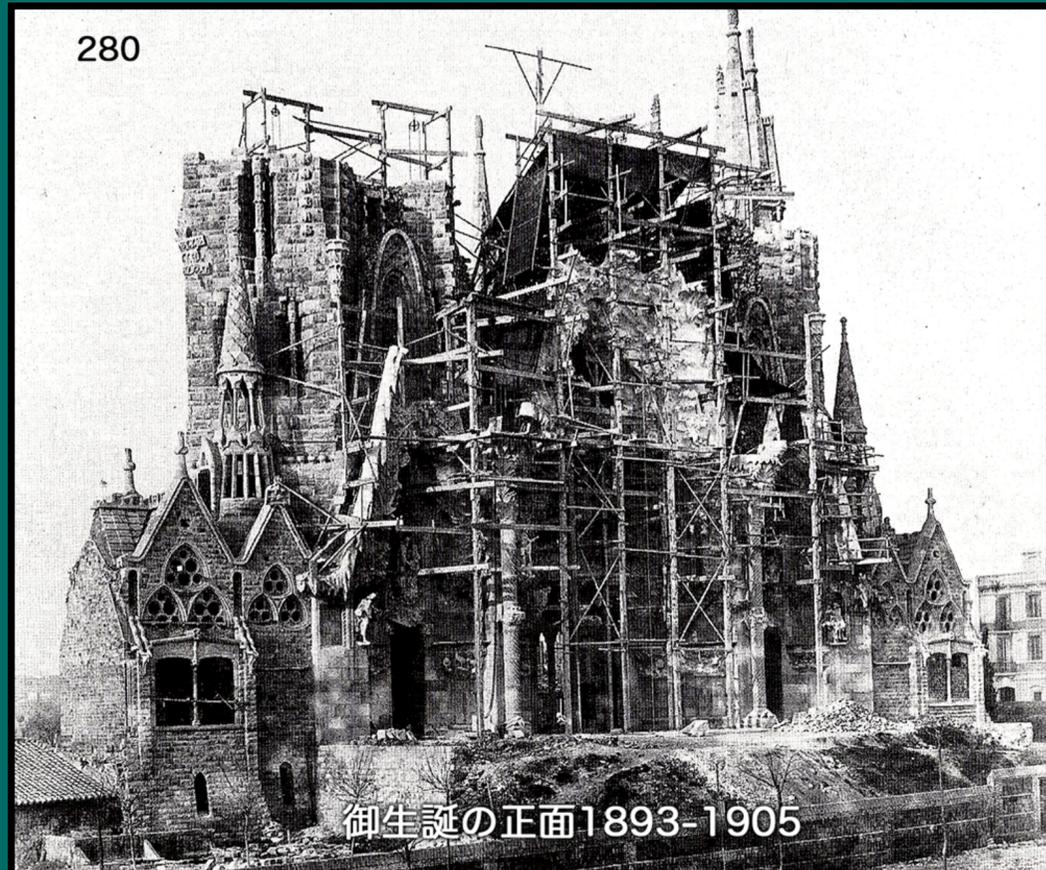
○ **279. 内観。** 内陣の床面が上がっているのは、前述の地階天井を上げたため (図276)。放射状条室間の角柱 (高さ50m) の内側を見れば、レンガ造石張りの様子がわかる。7祭室はサン・ホセの七つの喜びと悲しみに捧げられる。右上にはガウディ事務所のほぼ全景が入る、1927年撮影。



279

④-8-1・1883-1926年・(31~74歳)

御誕生の正面1893-1905・ロザリオの扉口1894-1901

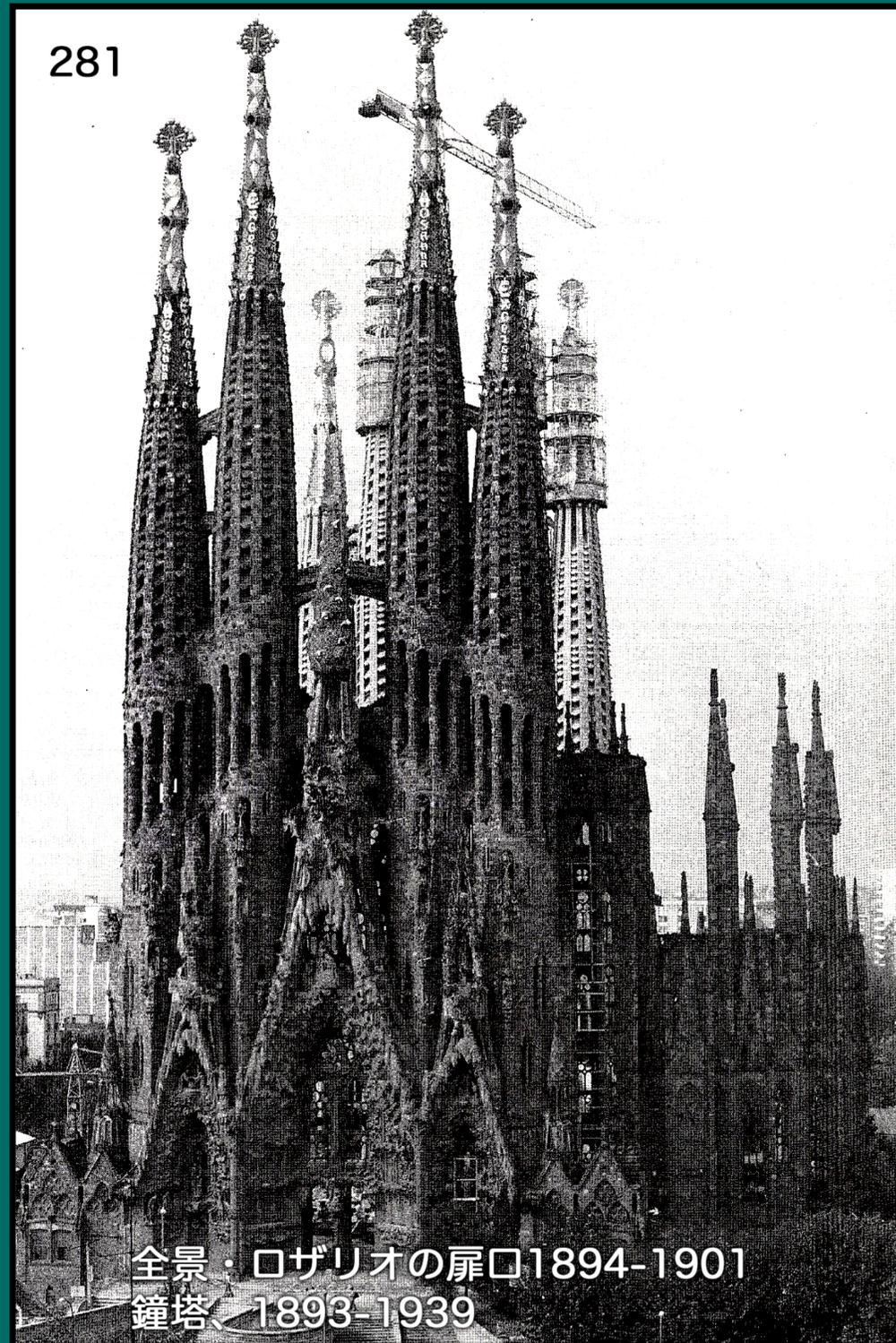


御誕生の正面1893-1905

乱石積とは

頂華とは

モンジュイック産砂岩



全景・ロザリオの扉口1894-1901
鐘塔、1893-1939

○御誕生の正面，1893-1905，1920-35 ロザリオの扉口，1894-1901 鐘塔，1893-1939・・・建設状況（189各年2月）。中央の扉口に架かりつつあるヴォールトは石膏模型である。この複雑な正面は，実寸の石膏模型が作られ，実際に設置検討されてから，石に刻まれた。1897年に使用された材料は，レンガ，332m³，ビリヤフランカ産石灰岩，317m³，モンジュイック産砂岩，470m³，乱石，500m³であった。つまり，レンガ造と乱石積で躯体を作り，聖堂内側の室内部を細工の容易な石灰岩で，聖堂外部の風雨にさらされる部分を硬質な砂岩で被覆した。躯体から切石積を採用すれば高価につく。1956年にモンジュイックの採石場が底をついたため，それ以来，鉄筋コンクリート躯体，人造石被覆となる

○281. 全景，ガウディ建築・・・初期の歴史主義から晩年の幾何学主義に発展したように，聖堂造形も同様な発展を示した。この正面は明らかにゴシック様式の構成をもち，それを縦長にしたものである。にもかかわらず，装飾はかつての様式建築に見られない徹底した自然主義にみなぎっている。年代的にも，第二期自然主義の前兆として見ることができる。バックの鐘塔は，下部の方で様式主義の名残を見せ，上方に行くに従って，自由な造形と化す。頂華は，晩年の独創をきわめた最高傑作といえよう。

④-9・1883-1926年・(31~74歳)

石の聖書(バイブル)1921年頃



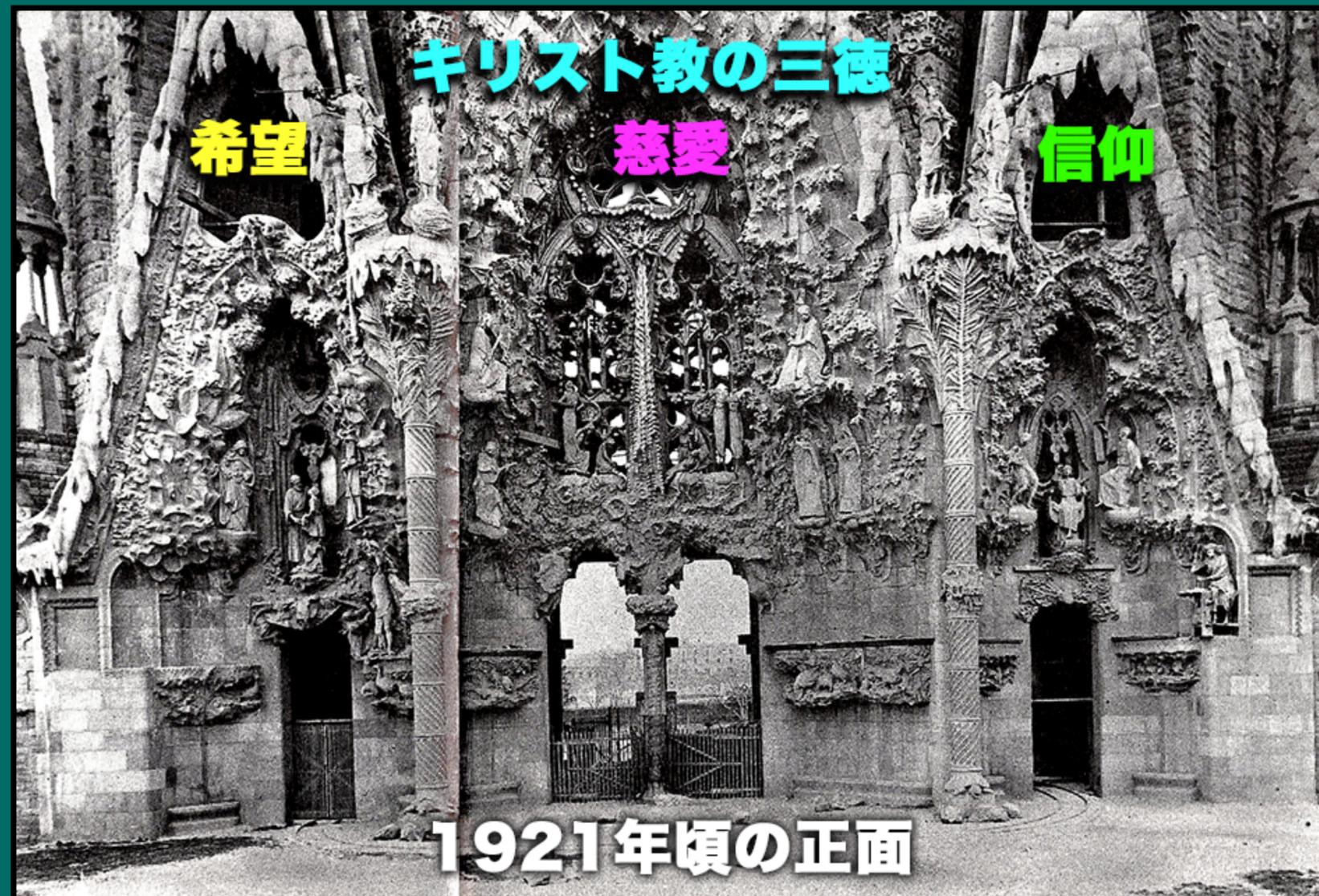
Sagrada Familia

生誕のファサード



4K

SAGRADA FAMILIA



キリスト教の三徳

希望

慈愛

信仰

1921年頃の正面

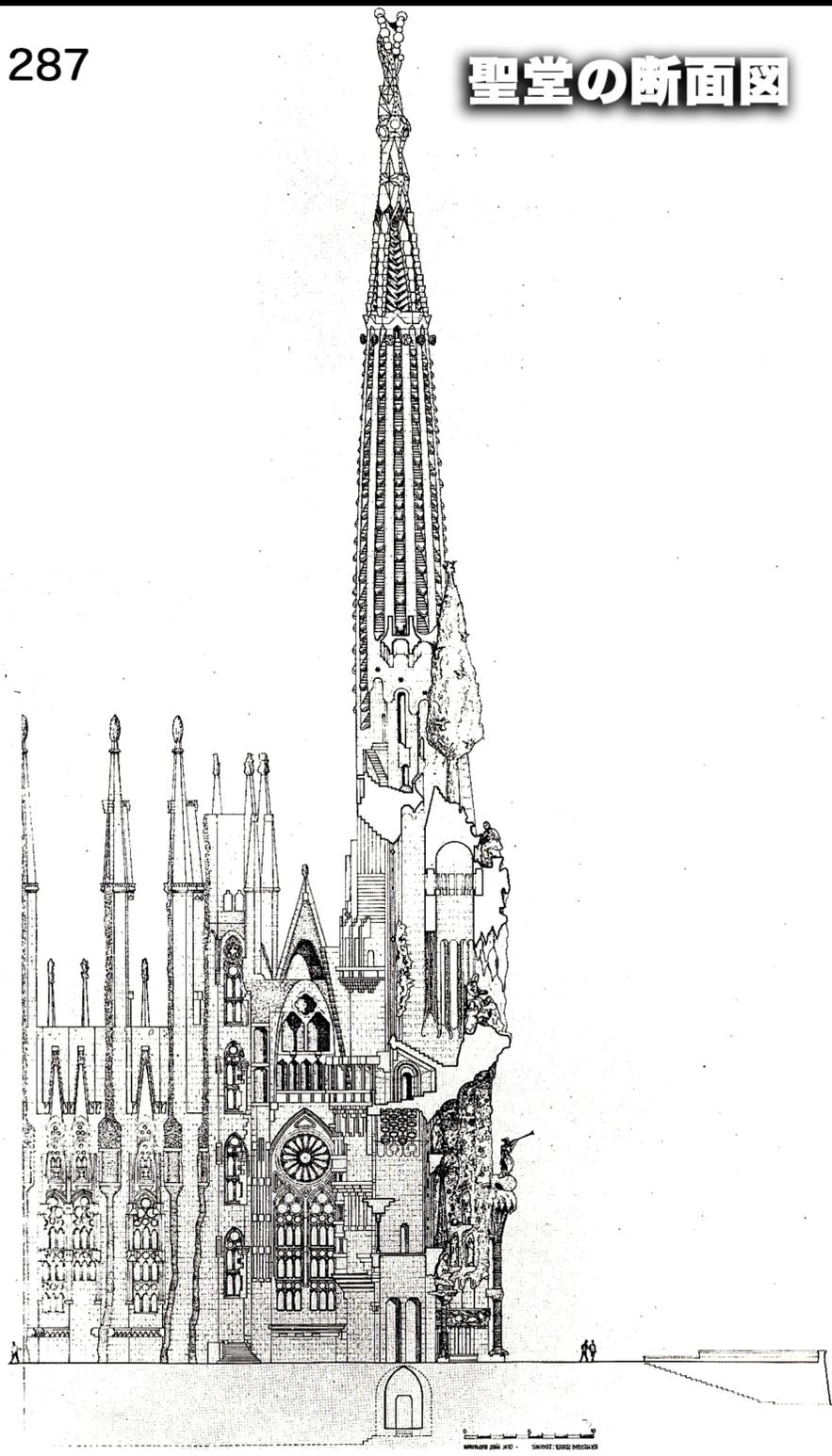
○ **希望の扉口**。左下の彫像群「**聖家族のエジプトへの逃避**」に合わせ、扉口内側はナイル川に成育する植物で飾られる。下部両側の彫像群の台座も、**水上に生息する鳥たち**で**装飾**される。中央の幼子イエスを見守るホセの台座と扉口の楯は、養父の職業である大工道具が刻まれる。

○ **慈愛の扉口内部**は、葉をつける前に花を咲かす植物と百羽の鳥で飾られる。トランペットを吹く天使たちは救世主の御到来（御生誕）を告げる。**人類の春の到来であり、この世の全てが歡喜にふるえる。**

○ **信仰の扉口**。内側はリンゴの花に蜜を求めて飛ぶ蜂や蝶で飾られる。禁断の実リンゴを食べることで人類の罪が始まり、その罪をあがなうためにイエスが送られ、**信仰が始まった。**

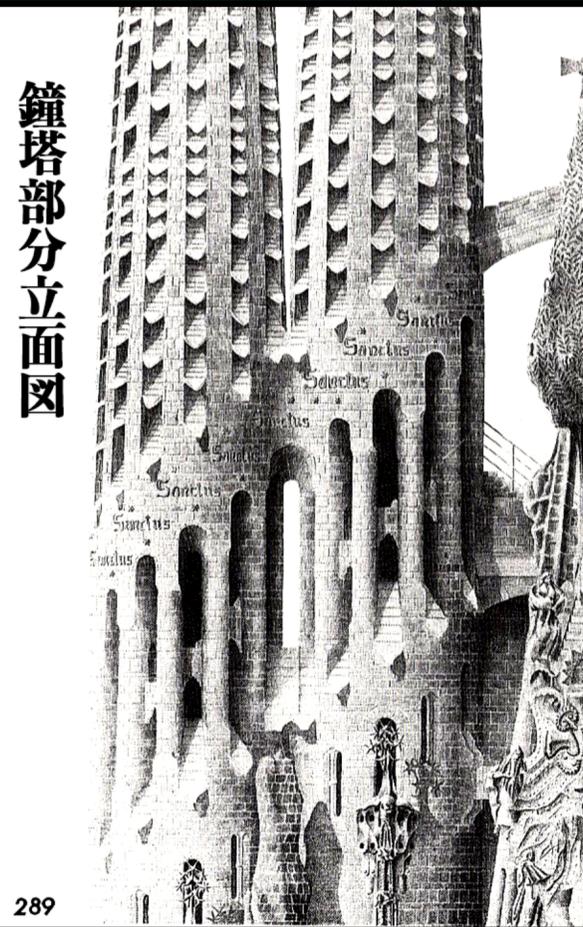
287

聖堂の断面図



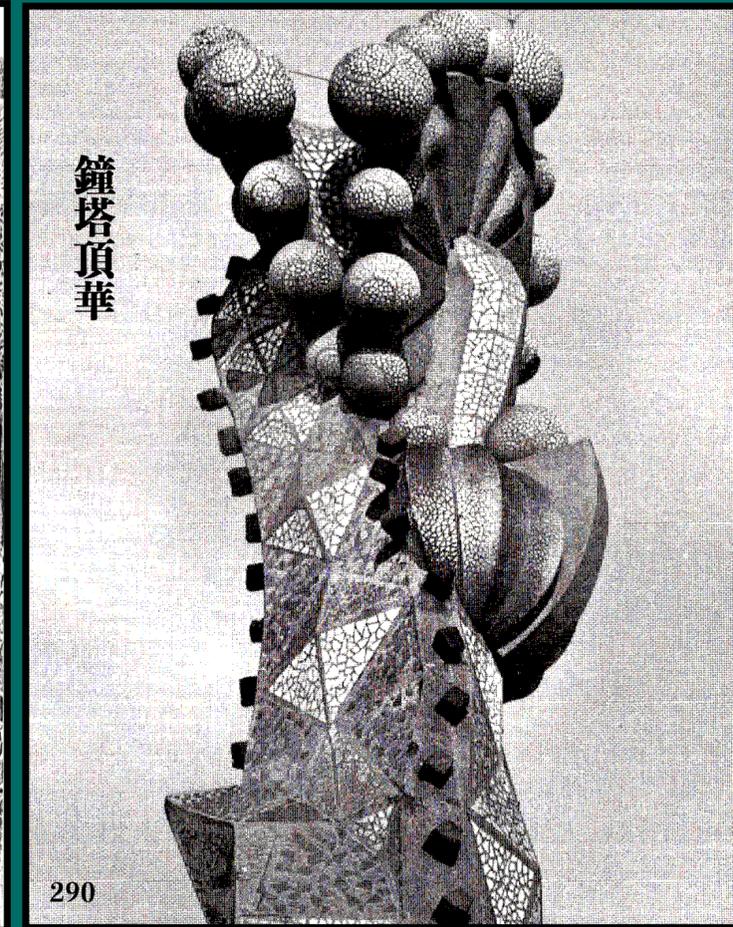
○断面図。御生誕の正面は、前任建築家ビリヤールの計画案に束縛されない部分であったから、ここにきて始めて、ガウディは独自の設計ができた。事実、ガウディの翼廊は大きくなり、翼廊につくこの正面の幅も2倍ほどになった。この正面は単に翼廊をふさぐための建築体ではなかった。ガウディは、その他に、石のバイブルとして、彫像群の設置場所という主要目的をこの正面にもたせた。この目的で正面はデザインされたため、御生誕の正面は、過去の建築には見られない空間性をもつ。それを可能にさせたのが方形平面の鐘塔を対角線状に配置した独創的手法であった。この配置法で得られた三角形状が作られたから、この正面は奥行をもつことができた。

鐘塔部分立面図



289

鐘塔頂華



290

○289. 鐘塔, 部分立面図。御生誕の正面の躯体となる鐘塔下部では、対角線の長さ10mの方形平面形をもつ。したがって、方形の一边の長さは約7m。約30mの高さで、角部にバルコニーや使徒像の台座が設けられ、円形平面に推移する。それからは、パラボラ断面の輪郭に従って、徐々に細くなる。

○290. 鐘塔頂華。この最終案に達するのに20種類にも及ぶ頂華デザインがなされたという。最終案は1920-21年になされ、それまでの実の高さ8mから、一挙に17mになった。使徒を象徴する杖がデザイン化され、先端の円盤に描かれた十字架は2.5×2.5mの大きさをもつ。

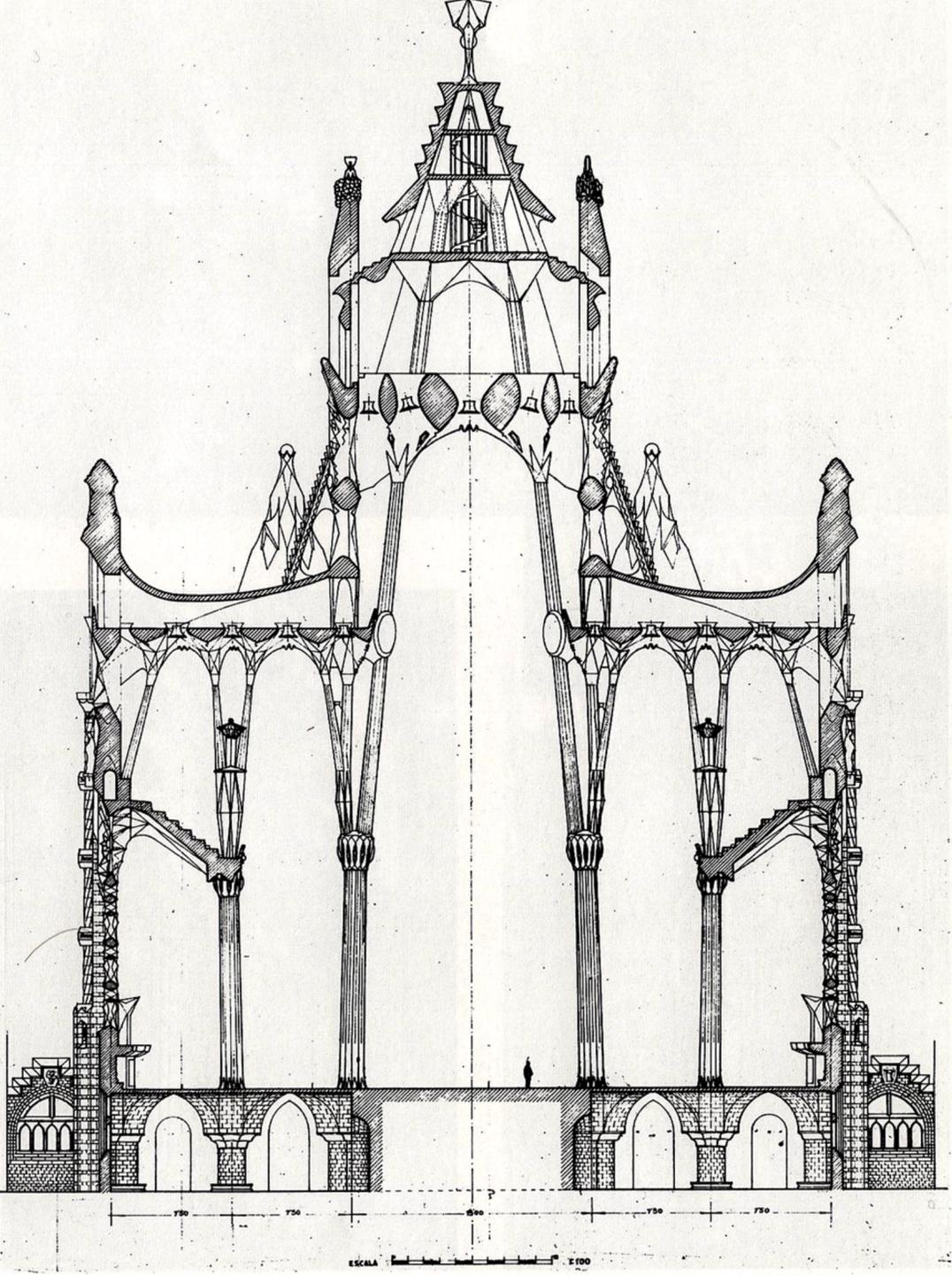
④-11・1883-1926年・(31~74歳)

聖堂の内部構成



Sagrada Familia

295 内部構成・最終案・身廊部・横断面図



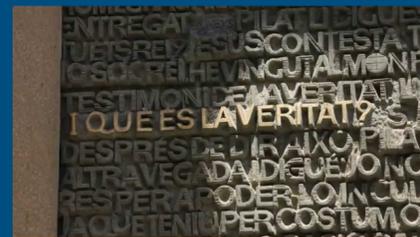
○ 295. 最終案, 身廊部横断面図 . . .
コロニア・グエル教会堂の逆吊り実験を生かし, 全体は安定性のあるピラミッド形状をなす。樹木が枝分かれし, 木の葉を支えるように, 転び柱も分枝し天井ヴォールトを支える。それ故, 樹木式構造という。外壁は控柱をもたず, はほとんどが開口部で開けられる。側廊の階段席のトリフォリウムは女性合唱隊席, 側廊の天井高は30m, 身廊は45mの高さをもつ。

森のような
内部空間

聖堂の
内部



YouTube



- 今日のテーマ

「地中海が生んだ天才建築家ガウディ」の作品と生涯に迫る#01

- いかがでしたか。感想をお願いします

- 次回のテーマのご要望を承りますので、忌憚なくお話しく
ださい。